土木学会九州大会報告

第 51 回通常総会

秋竹実行委員長

昭和40年度通常総会は昭和30年以来 10 年ぶりで福岡市中島町 明治生命ビルの講堂で開かれた。昭和 40 年 5月 28 日午後2時 10 分福田会長が議長席につき，羽田専務理事の司会により秋竹大会実行委員長を紹介，歓迎の言葉が述べられ，つづいて羽田専務理事より，現出席会員 174 名，委任状による参加会員 875 名，計 1 049 名をもって，会員総数 20 158（4月末）の 20 分の1の 1 007 名以上の出席があるので総会が成立する旨報告があり，ここに第 51 回通常総会を宣し，つづいて福田議長が立ち，西部支部の協力を謝し議事に入った。

議案 1. 昭和 39 年度事業報告（自昭和 39 年4月1日～至昭和 40 年 3 月31日）

篠原理事より説明があり承認された。

I. 理事，監事の改選（39.5.11，評議員会で当選）

	退任	留任	新任
会長	山本三郎君		福田武雄君
副会長	岡本舜三君	好井宏海君	大石勇君
			山内一郎君
専務理事		羽田巌君	
理事	大石勇君	内田隆滋君	伊藤直行君
	岡部保君	江口馨君	板倉忠三君
	田中五郎君	佐々木正久君	岡崎忠一君
	竹ケ原輔之夫君	嶋祐之君	春日屋伸昌君
	三野定君	前沢肥君	粕谷逸男君
	渡辺新三君		近藤市三郎君
			斎藤義治君
			篠原登美雄君
			鋲靖司君
			西村敏男君
			樋浦大三君
			藤田博愛君
			松尾新一郎君
			村上正君
			八木健二君
			安宅勝君
			渡辺時也君
			渡辺新三君
監事			小林嘉道君
			武内修君

カット写真：総会・総合講演会・学術講演会・懇親会・記者会見・見学会等のスナップより

II. 役員登記

理事の変更および監事の登記（昭和39年10月10日）

III. 通常総会および役員会

（1） **通常総会**（39.5.29，仙台市 七十七銀行会議室）

出席者：911 名（委任状 795 名をふくむ）

会員数 17 447 名

定足数 872 名

議案：

1） 昭和 38 年度事業報告 承認

2） 昭和 38 年度決算報告 承認

3） 定款一部改正 可決

改正要旨：事業に図書，資料の収集保管を会員の特典に上記資料の無料閲覧を追加

4） 名誉会員の推挙 承認

稲浦鹿蔵君　小川敬次郎君
岡部三郎君　坂上丈三郎君
鮫島茂君　高橋嘉一郎君
武居高四郎君　沼田政矩君
星野茂樹君　三浦義男君
鷲尾蟄竜君

5） 土木賞の授与

土木学会賞：滝山養君　三笠正人君

土木学会奨励賞：林正夫君　大長昭雄君
深沢泰晴君

6） 吉田賞および吉田研究奨励金

吉田賞：樋口芳朗君　岩間滋君

吉田研究奨励金：

個人研究 3件

赤塚雄三君　渡辺明君
青柳征夫君

グループ研究 3件

森田司郎君　藤井学君
町田富士夫君　宮坂慶男君
石川元衛君　北井良吉君
小寺重郎君　岩城良君

7） 新役員（理事，監事）の紹介

前掲省略

（2） **評議員会**

1） 定例（39.5.12）

1. 総会提出議案（前掲省略）可決
2. 新役員選挙の結果報告（前掲省略）承認
3. 50 周年記念事業中間報告 了承

2） 臨時（39.9.26）

1. 50 周年記念事業中間報告 了承
2. 基金繰入（別途報告）可決
3. 理事（会長，副会長をふくむ），監事の選出制度について 未決

3） 臨時（40.1.21）

1. 50 周年記念事業経過報告 承認
2. 役員候補者選考内規（別途報告）可決
3. 役員の選出について 承認

4) 定例 (40.3.30)
1. 定款の一部改正案 (議案 3) 可決
2. 規則の一部改正 (別途報告) 可決
3. 昭和 40 年度事業計画 (別途報告) 可決
4. 昭和 40 年度予算 可決

(3) 理事会

定例：昭和 39 年4月～昭和 40 年3月 12 回
1. 協議事項
2. 報告事項 各種委員会その他

(4) 支部幹事長会議 (39.8.21)
1. 50 周年記念事業
要旨：計画ならびに経過を報告協力方要請，ことに支部記念行事と会員増加対策について
2. 総会開催地の順序について
要旨：現在の順序 (昭 40 年西部，41 年北海道，42 年中・四) が一巡してから検討する
3. 理事，監事候補者推薦方法
各支部の意向を聴取
4. 文部省の定款改正認可報告，その他

IV. 各種委員会

(1) 土木賞委員会

委員長 福田武雄君 副委員長 山内一郎君
学術賞主査 八十島義之助君 技術賞主査 伊藤 剛君
外に委員および幹事 19 名
1) 委員会3回 主査幹事会4回 その他1回
2) 土木賞受賞者の選考

(2) 吉田賞委員会

委員長 山本三郎君 副委員長 国分正胤君
外に委員および幹事 24 名
1) 委員会3回 小委員会2回 幹事会2回，2) 吉田賞受賞者および吉田研究奨励金の被授与者の選考

(3) 学術講演連絡委員会

委員長 林 泰造君 外に委員 17 名 (うち幹事1名)
1) 委員会4回，2) 第19回年次学術講演会(39.5.30～31 仙台市)・夏期講習会 (39.8.27～28 東京都) に協力検討，3) 第14回応用力学連合講演会 (39.9.7 京都市)・第8回材料試験連合講演会 (39.9.9～10 京都市) に協力検討，4) 土木系学生会を指導後援

(4) 大学土木教育委員会

委員長 米屋秀三君 外に委員および幹事37名 (うち幹事 10 名)
1) 委員会2回 幹事会および打合会 10 回，2)「大学卒業生の活躍状況」・「大学土木教育の実情」を調査検討し，中間報告書を作成，11 月 25 日シンポジウムを本会土木図書館講堂で開催，本報告書作成準備を行なった。

(5) 高校土木教育研究委員会

委員長 福田武雄君 外に委員および幹事 30 名
1) 幹事会4回 分科会1回，2) 前年度までは高校土木教育研究会であったが本年度から委員会として改組した，3) 高校土木教育のあり方について検討，産学懇談会の開催等に協力，4) 既刊土質・材料の実験指導書の改訂準備，水理実験指導書の発刊準備を分科会を設けすすめている。

(6) 会誌編集委員会

委員長 八十島義之助君 副委員長 樋口芳朗君
外に委員および幹事 37 名
1) 委員会 12 回 小委員会 12 回 打合会その他12回，
2) 土木学会誌 49 巻5号～50 巻4号 12 冊 (うち 50 周年記念特集号1冊)

登載内容：	論説	11	座談会	5	展望	10
	解説	5	講演	17	報告	25
	資料	4	寄書	12	話のひろば	5
	海外事情	3	講座	6	ロータリー	11
	マンスリートピックス	28	特殊記事	8	ニュース	86
	豆知識	12	論文紹介，文献抄録，文献目録等			

3) 発行総ページ数：2 406 ページ(目次，写真，広告をふくむ)，4) 発行部数：227 600 部，5) 前年度よりページ数，発行部数ともに増加した。おもな内容は地域的なものとして前年度に引続き「東北開発の展望」，「近畿の現状と将来」を特集，トピックスとして「第2回国際水質汚濁研究会議」，「東海道新幹線」，「高速道路」，「1964年の回顧と展望」，「土木界―これからの課題」，「海工」，「土木デザイン」など集録し土木技術と密着する会誌とし，なお平易にしわかりやすくした。新潟地震，新幹線(車中)，学会の現況とその問題点，国土開発映画を語るなどの座談会を行ない，土木界の問題を掘り下げた「今日の焦点」欄を新設した。また創立 50 周年記念出版委員会の要請により 320 ページにおよぶ記念特集号を刊行し多彩な記念行事の締めくくりとした。

(7) 論文集編集委員会

委員長 奥村敏恵君 副委員長 三木五三郎君
部会長 栗津清蔵君 部会長 池守昌幸君
外に委員および幹事 41 名
1) 委員会6回 部会長会6回，2) 土木学会論文集 105 号～116 号 12 冊，3) 発行総ページ数：532 (英文要旨 77) ページ，4) 発行部数：50 850 部，5) 前年度にくらべ総ページ数は減少したが，購読者は約 29% 増加した。討議欄を新設するほか投稿規程を緩和した。

(8) 出版企画委員会

委員長 森 茂君 副委員長 春日屋伸昌君
外に委員および幹事 24 名
1) 委員会 11 回，幹事会(打合会をふくむ)13 回，2) 出版物および監修出版物の企画調整，出版物のアンケート調査を行なった。3) 主なる新刊：委員会関係出版物「コンクリート委員会：コンクリートライブラリー第 10 号～第 12 号，水理委員会：第9回水理講演会講演集・水工学シリーズ全9巻 1964 年版，海岸工学委員会：第11回海岸工学講演会講演集・Coastal Engineerig in Japan Vol. 7，海外連絡委員会：Civil Engineering in Japan 1964，トンネル工学委員会：トンネル工学示

方書解説・トンネル工学シリーズ (2)—最近のトンネル工学—，衛生工学委員会：第1回衛生工学研究討論講演会講演概要，耐震工学委員会：第7回地震工学研究発表会講演概要・Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundation in Japan, 1964, 土木工学ハンドブック編集委員会：土木工学ハンドブック下巻・同全巻・同大型上巻・同大型下巻（技報堂刊)」，50 周年記念出版物「日本の土木技術—100 年の発展のあゆみ—・建設/創造/技術（彰国社刊)・土木学会誌・論文集総索引・土木学会 50 年略史」，その他「土地造成・爆破（鹿島研究所出版会刊)」。

(9) 文献調査委員会

委員長 高 橋 裕君 外に委員および幹事 26 名

1) 委員会 14 回 打合会 1 回，2) 会誌 49 巻 5 号～50 巻 4 号に文献抄録 76 件 93 ページ，文献目録 5 869 件 91 ページ，解説記事 4 編 29 ページを登載，3) 内外文献の整理収集と海外文献より見た展望解説記事「都市再開発」・「特殊舗装」・「責任施工」・「海の建設工事」の 4 編を会誌に登載。

(10) 土木図書館運営委員会

委員長 米 元 卓 介君 外に委員および幹事 19 名

1) 委員会 4 回 幹事会 9 回 分科会 5 回，2) 図書館の運営について，3) 備付図書の選定と関係資料の寄贈を依頼，4) 備付図書の分類方式および図書館運営事務について分科会を設け検討。

(11) 土木製図規格委員会

委員長 福 田 武 雄君 外に委員および幹事 11 名

改訂の準備を行なった。

(12) 日本土木史編集委員会

委員長 青 木 楠 男君 副委員長 金 子 柾君 外に委員および幹事 27 名

1) 打合会 20 回，2) 40 周年記念として企画され中断していたものを再開し「大正以降日本土木史」を「日本土木史—大正元年から昭和 15 年まで」と改題し，編集をほぼ終了した。

(13) 海外連絡委員会

委員長 徳 善 義 光君 外に委員および幹事 17 名

1) 委員会 4 回 幹事会(打合会をふくむ) 4 回，2) 土木関係国際会議に協力，3) 英文年報 Civil Engineering in Japan 1964 を刊行，1965 年版の編集を行なった，4) わが国の土木技術の海外進出に協力，5) アメリカ土木学会と客員サービス制度の契約の締結。

(14) 水理委員会

委員長 石原藤次郎君 副委員長 横 田 周 平君 外に委員および幹事 43 名

1) 委員会 3 回 幹事会 6 回 小委員会 1 回，2) 第 9 回水理講演会 (40.2.12～13)，を本会土木図書館講堂で開催し，講演集を刊行，3) 水理学の現況を会誌に発表，4) 水工学夏期研修会 (39.7.20～8.1・京都市) を開催し，講演集を刊行，5) モスタート氏講演会 (39.9.21) を京都市で，イッペン氏講演会 (40.3.26) を本会土木図書館講堂で開催，6) 河川災害に関する水理学シンポジウムに協力，7) 水理公式集改訂小委員会を設け，既刊水理公式集のアフターケアーと次期改訂の準備を行ない，水文学小委員会を設けユネスコの国際水文 10 年計画に協力，8) 第 10 回海岸工学国際会議を日本で開催に協力。

(15) 海岸工学委員会

委員長 本 間 仁君 外に委員 33 名

1) 委員会 3 回 小委員会 3 回，2) Coastal Engineering in Japan Vol. 7 を刊行し，Vol. 8 の編集を行なった。3) 第 11 回海岸工学講演会 (39.11.25～27・大分市) を開催し，講演集を刊行，4) 1966 年 9 月 第 10 回海岸工学国際会議を日本で開催に協力，5) 海岸施設設計便覧および海岸工学用語集の刊行準備を行なった。

(16) 耐震工学委員会

委員長 那 須 信 治君 副委員長 岡 本 舜 三君 外に委員および幹事 27 名

1) 委員会 10 回，2) 地震工学トレーニングセンターに協力，3) International Association for Earthquake Engineering に協力，4) 耐震関係国際会議との連絡，5) 諸外国と耐震関係の連絡，6) 地震工学国内研究委員会に協力，7) 第 7 回地震工学研究発表会 (39.10.5～6) を本学会で開催，講演集を刊行，8) 英文耐震規定を改訂刊行，9) 土木振動学便覧の編集小委員会を設けて刊行準備を行なった，10) 国内地震被害の調査，新潟地震については調査委員会を設け，報告書を 40 年度刊行の予定。

(16—1) 土木振動学便覧編集小委員会

委員長 大 地 羊 三君 外に委員および幹事 28 名

1) 委員会 8 回 打合会 2 回，2) 40 年度中に刊行の目標で編集中。

(17) 新潟震災調査委員会

委員長 岡 本 舜 三君 外に委員および幹事 53 名 専門委員 84 名

1) 委員会 1 回 主査幹事会 2 回 幹事会 2 回 打合会 3 回専門委員会 20 回，2) 14 部門に分け，それぞれ主査，専門委員をおき報告書を作成中。

(18) 橋梁構造委員会

委員長 福 田 武 雄君 外に委員および幹事 18 名

1) 第 11 回橋梁構造工学研究発表会(39.11.27・東京都) を日本学術会議・日本建築学会と共催，2) 第 8 回国際橋梁・構造工学会議に協力，3) International Association for Bridge and Structural Engineering に協力，4) A.S.C.E 研究調査活動に協力。

(19) トンネル工学委員会

委員長 藤井松太郎君 幹事長 加 納 倹 二君 主 査 坂 本 貞 雄君 住 友 彰君 村 山 朔 郎君 外に委員および幹事 48 名

1) 委員会 1 回 主査幹事会 10 回 打合会 2 回 視察会 1 回，2) トンネル標準示方書解説，トンネル工学シリーズ 2—最近のトンネル工学—を刊行，これらを教材として夏期講習会 (39.8.27～28・東京都) を開催，3) ずい道土圧と覆工の所要巻厚に関する研究委員会に協力，4) 高速道路トンネル標準断面に関する調査研究委員会に協力，5) 新清水トンネルの視察。

(20) 岩盤力学委員会

委員長 岡 本 舜 三君 外に委員および幹事 83 名（うち常任委員 55 名）

1) 委員会 1 回 常任委員会 5 回 主査幹事会 3 回 分科会 33 回，その他 3 回，2) 地質・岩の試験・応用・理論解析・トンネルの 5 部門に分け調査研究を行なった。昭和 40 年度中にはその成果を「岩盤力学」として刊行する予定，3) 岩の力学国内シンポジウム (39.11.11～12・東京都) を日本鉱業会・日本材料学会・土質工学会

と共催，4) フランス国タローブル氏を囲む懇談 (39.8.31・東京都) を開催，6) 工事報告川俣アーチダムの編集を小委員会を設けて行なった。

(20—1) 川俣アーチダム編集小委員会

委員長 岡本舜三君　副委員長 駒井　勲君
外に委員5名

1) 調整幹事会，座談会 30 回，2) 24 名に分担執筆を依頼し，約 80% の原稿の調整を完了した。

(21) 衛生工学委員会

委員長 広瀬孝六郎君→板倉　誠君　外に委員および幹事 19 名

1) 委員会5回,2) 衛生工学の調査研究と国内外の連絡を行なった，3) 第1回衛生工学講演討論会 (39.12.5・東京都) を開催，講演概要を刊行，4) 第2回国際水質汚濁研究会議 (39.8.24～28・東京都) 開催に協力。

(22) 原子力土木技術委員会

委員長 左合正雄君　外に委員および幹事 26 名

1) 委員会6回，2) 原子力における土木工学の調査研究を行なった，3) 第1回理工学における同位元素研究発表会(39.4.21・東京都)を日本放射性同位元素協会等 42 団体と共催，4) 第3回原子力総合シンポジウム (40.4.15～16・東京都) を日本原子力学会等 26 協会と共催，5) 原子力関係コンクリート小委員会に協力。

(23) コンクリート委員会

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 54 名

1) 委員会7回　幹事会 (分科会,打合会をふくむ) 21 回
2) 既刊コンクリート標準示方書改訂のためつぎの小委員会において検討した。
　鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会
　無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会
3) 高強度異形棒鋼の規格化，実用化のため小委員会で調査研究を行なった,4) フライアッシュ混和コンクリート中における鉄筋のサビに関する長期研究のため小委員会で調査研究を行なった，5) 構造用軽量骨材の標準化，実用化のため小委員会で調査研究を行なった，9) 放射性廃棄物の海洋投棄用容器に関し小委員会で調査研究を行なった，7) アルミナセメント懇話会 (39.12.9) を本会土木図書館講堂で行なった，8) 日本 A.C.I. に協力，9) 土木学会・日本建築学会のコンクリート連合委員会において共通の問題を検討，10) 日本コンクリート会議設立準備に協力，11) 吉田賞委員会に協力，12) コンクリート・ライブラリー 10 号～12 号を刊行，13) コンクリート関係有志懇談会 (39.6.10) を本学会で開催，14) コンクリート関係国際連絡懇談会 (39.10.20・東京都) を開催。

(23—1) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 31 名

鉄筋コンクリート標準示方書の改訂について検討

(23—2) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 37 名

無筋コンクリート標準示方書の改訂について検討

(23—3) プレストレスト コンクリート小委員会

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 64 名

プレストレスト コンクリートに関する調査研究を行ないプレストレスト コンクリート設計施工指針の次期改訂に備え検討

(23—4) 異形鉄筋実験研究小委員会 (受託)

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 18 名

高強度異形棒鋼に関する試験を行ない，規格化および実用化の基礎資料を得るため研究を行なった。

(23—5) フライアッシュ小委員会 (受託)

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 23 名

フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のサビに関する長期研究を行なった。

(23—6) 構造用軽量骨材に関する研究委員会 (受託)

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 13 名

構造用軽量骨材の品質および使用方法の標準化の基礎資料を得る調査研究を行なった。

(23—7) 原子力関係コンクリート小委員会 (受託)

委員長 国分正胤君　外に委員および幹事 25 名

放射性廃棄物の海洋投棄用容器に関し模型実験，文献資料の収集等を行なった。

(24) 50 周年記念事業委員会

委員長 福田武雄君　副委員長 山本三郎君
外に委員 74 名

1) 委員会1回，2) 総務委員会・図書館建設委員会・行事委員会・記念出版委員会の活動によって記念事業の遂行を期す，3) 40 年2月の委員会で，本委員会の目的をほぼ達したので解散した。

(24—1) 50 周年記念事業総務委員会

参　与　富樫凱一君　比田　正君
　　藤井松太郎君　山内一郎君
委員長　永田　年君
副委員長　滝山　養君　種谷　実君
　　西松醇厚君
外に委員　28 名

1) 委員会3回　小委員会1回，2) 募金目標額7000万円の推進，3) 記念式典における表彰者の決定，4) 記念出版物の贈呈，5) 40 年1月の委員会で，募金目標の達成確実となったため，この委員会を解散することとした。

(24—2) 図書館建設委員会

委員長 金子源一郎君　外に委員5名

1) 土木図書館建設についての関係官公庁への所要許認可の申請，2) 39 年6月図書館建設工事の発注,3) 39 年 10 月 31 日同工事落成，4) 内部備品の整備および外周整備工事の遂行，5) 40 年1月より開館，6) 本委員会の目的をほぼ達したので解散することとした。

(24—3) 50 周年記念事業行事委員会

委員長 田中茂美君　副委員長 岡本舜三君
副委員長 加納倹二君　中島　武君
外に委員 16 名

1) 委員会1回　部会1回，2) つぎの行事を行なった。

式　典	上野公園	東京文化会館小ホール 39 年 11 月6日
祝賀会	同	精養軒大ホール 39 年 11 月6日夜
講演会	同	東京文化会館小ホール 11 月7日

映画コンクール：出品 32 編中6編入選決定
巡回映画会：全国主要都市　11月10日～12月11日
見学会：都内見学，東海道見学　11月8日～10 日

3) 本委員会の目的をほぼ達したので解散することとした

(24—4) 50 周年記念事業記念出版委員会

委員長　佐藤寛政君
副委員長　奥村敏恵君　　山田順治君
外に委員 16 名
1) 委員会1回　編集委員会6回　編集委員会幹事会8回
2) つぎの記念出版を行なった。
1. 建設/創造/技術　　(委員長　片山裕一君)
2. 学会誌・論文集総索引 (委員長　千秋信一君)
3. 日本の土木技術　　(委員長　沼田政矩君)
—100 年の発展のあゆみ—
4. 土木学会 50 年略史　(学会事務局)
5. 学会誌記念特集号　　(会誌編集委員会)
6. 土木工学ハンドブック (委員長　福田武雄君)
3) つぎの記念出版の編集中
1. 日本土木史 (大正元年〜昭和 15 年)
(委員長　青木楠男君)
大正以降日本土木史を改題，40 年7月発刊予定
2. 土木用語辞典　　(委員長　本間　仁君)
40 年発刊予定

(25) 本州・四国連絡橋技術調査委員会 (受託)
委員長　田中　豊君→青木楠男君
副委員長　沼田政矩君
顧　問　鈴木雅次君　内海清温君
外に委員，幹事および幹事補佐 43 名
1) 委員会2回　幹事会2回　打合会21回,2) 本州・四国連絡橋の技術的検討を行なうため，基礎に関する専門部会,上部構造に関する専門部会,耐風設計小委員会，耐震設計小委員会を設け調査研究を行ない，今年度までの成果を取まとめ第1次報告書として中間報告を行なった。

(25—1) 基礎に関する専門部会 (受託)
部会長　沼田政矩君　　副部会長　広田孝一君
外に委員および幹事 65 名
1) 部会3回　幹事会 10 回　特別幹事会 14 回　打合会3回，2) 地形，地質の調査，橋梁基礎の構造,工法について調査を行なった。なお本年度は中間報告を行なった。3) 部会内に設計調査幹事会，施工調査幹事会，地盤調査幹事会を設け，それぞれ専門的な調査研究を行なった。

(25—2) 上部構造に関する専門部会 (受託)
部会長　青木楠男君　外に委員および幹事 63 名
1) 部会4回　幹事会 12 回　打合会 11 回，2) 長大橋梁の構造・工法・耐風性および耐震性等についてそれぞれ専門小委員会を設け調査研究を行なった。本年度は中間報告を行なった。

(25—3) 耐風設計小委員会 (受託)
委員長　平井　敦君　外に委員および幹事 44 名
1) 委員会6回　幹事会 14 回　打合会1回，2) 耐風設計に関し専門的に調査研究を行なった。本年度は中間報告を行なった。

(25—4) 耐震設計小委員会 (受託)
委員長　岡本舜三君　外に委員および幹事 48 名
1) 委員会3回　幹事会 15 回　打合会7回，2) 耐震設計に関し専門的に調査研究を行なった。本年度は中間報告を行なった。

(26) 八郎潟干拓船越水道計画施行研究委員会 (受託)
委員長　本間　仁君　外に委員，幹事および幹事補佐 17 名
1) 委員会2回,2) 八郎潟干拓工事の諸問題研究を行なった。

(27) 河北潟干拓河口工事研究委員会 (受託)
委員長　福田仁志君　外に委員，幹事および幹事補佐 18 名
1) 委員会3回 (うち現地視察1回)，2) 河口工事の施行方法について検討。

(28) 耐震構造設計研究委員会 (受託)
委員長　岡本舜三君　外に委員および幹事 59 名
1) 委員会5回　幹事会 (打合会をふくむ) 7回，2) 本年度は「土木構造部耐震設計指針案」を作成報告し研究を終了した。

(29) ずい道土圧と覆工の所要巻厚に関する研究委員会 (受託)
委員長　丸安隆和君　外に委員および幹事 18 名
ずい道土圧と覆工の所要巻厚について研究し，報告書を作成報告して研究をおえた。

(30) 高速道路トンネルの標準断面に関する調査研究委員会 (受託)
委員長　住友　彰君　外に委員および幹事 15 名
1) 委員会3回，2) 高速道路トンネルの標準断面について研究を行ない報告書を作成報告し研究をおえた。

V. 本部行事

(1) 講演会・研究発表会・シンポジウム

1) 39. 5.30〜31：第 19 回年次学術講演会(東北支部実施)
1. 総合講演　東北大学川内記念講堂　講演数5題　参加者 1500 名
2. 一般講演　東北大学川内分校 393 題　参加者　延 3500 名
2) 39.10.5〜6：第7回地震工学研究発表会　土木学会会議室　講演数15題　特別講演4題　参加者 210 名
3) 39.10.6：「東海道新幹線と土木技術」講演会　朝日講堂　講演数7題　映画2編　参加者 600 名
4) 39.11.7：創立 50 周年記念講演会　東京文化会館小ホール
会長講演　1題　特別講演　2題　部門別講演　9題　参加者 200 名
5) 39.11.25：土木技術者の活躍と大学土木教育に関するシンポジウム
土木学会土木図書館講堂　講演数 10 題　参加者 180 名
6) 39.11.25〜26：第 11 回海岸工学講演会　大分農業会館　講演数 42 題　参加者　延 340 名
7) 39.12.5：第1回衛生工学講演討論会　日本都市センター　講演数8題　参加者 120 名
8) 39.12.9：アルミナセメントに関する懇話会　土木図書館講堂　6題　参加者 150 名
9) 40.2.12〜13：第9回水理講演会　土木図書館講堂　15 題　参加者 150 名
10) 40.3.26：マサチュウセッツ工科大学　アーサー・イッペン教授講演会　土木図書館講堂　参加者 50 名

(2) 講習会

1) 39.8.27〜28：昭和 39 年度夏期講習会　豊島公会堂　発表数9題　参加者 1600 名
2) 39.7.20〜8.1：水工学に関する夏期研修会　京都大学

参加者　Aコース72名　Bコース42名

（3） 見学会

1) 39.5.31～6.2：通常総会見学会
A班（1日）仙台市内・松島コース　参加者　90 名
B班（2日）裏磐梯スカイラインコース　参加者　100 名
C班（2日）中尊寺・花巻コース　参加者　50 名
D班（3日）十和田コース　参加者　50 名

2) 39.11.8：　創立 50 周年記念都内見学会　参加者　200 名

3) 39.11.9～10：　創立 50 周年記念東海道見学会　参加者　50 名

4) 39.11.27：　第 11 回海岸工学講演会見学会　別府・城島高原・小田の池・牧の戸峠・瀬の本・城山・阿蘇山　参加者　60 名

（4） 懇親会・懇談会・等

1) 39.5.29：　土木賞・吉田賞受賞者懇談会　仙台市セントラルホテル　参加者　12 名

2) 39.5.30：　通常総会懇親会　仙台市グランドホテル　参加者　350 名

3) 39.5.13：　第2回衛生工学懇親会　仙台市セントラルホテル　参加者　54 名

4) 39.6.6：　コンクリート関係有志懇談会　土木学会会議室　参加者　61 名

5) 39.6.19：　新旧理事引継懇談会　ステーションホテル　参加者　19 名

6) 39.7.1：　新潟地震座談会　ダイヤモンドホテル　参加者　16 名

7) 39.8.16：　東海道新幹線　全線試乗車中座談会　新幹線試運転列車中　参加者　14 名

8) 39.8.31：　フランスコンサルティングエンジニアジョセフ・タローブル氏を囲む懇談会　国際文化会館　参加者　22 名

9) 39.10.5：　第7回地震工学研究発表会懇談パーテー　土木学会会議室　参加者　16 名

10) 39.10.20：　コンクリート関係国際連絡のための懇談会　土木学会会議室　参加者　16 名

11) 39.11.6：　創立 50 周年記念祝賀会　上野精養軒　参加者　350 名

12) 39.11.16：　学会の現況とその問題点座談会　レインボーホール　参加者　7 名

13) 39.11.25：　土木技術者の活躍と大学土木教育に関するシンポジウム懇談会　土木図書館5号室　参加者　24 名

14) 39.11.27：　創立 50 周年記念懸賞論文授賞式　土木図書館5号室　参加者　25 名

15) 39.12.5：　第1回衛生工学講演討論会懇談会　日本都市センター　参加者　40 名

16) 39.12.7：　国土開発映画を語る座談会　レインボーホール　参加者　8 名

17) 40.1.8：　メキシコ国立大学工学部　マウリチコ・ポラーツゴレ教授　来会

18) 40.3.6：　川俣アーチダムを語る座談会　ホテルニューオータニ　参加者　13 名

19) 40.3.26：　米国マサチュウセッツ工科大学　アーサー・イッペン教授を囲む懇談会　土木図書館5号室　参加者　32 名

（5） 映画会

39.11.8～12.11：創立 50 周年記念巡回映画会
東京地区　7カ所　参加者　3230名
他地区　11 市　参加者　6990名

（6） 関係学協会と共催・後援および協賛の行事

1) 39.4.21：　第1回理工学における同位元素研究発表会（共催）　東京大学医学部，薬学部

2) 39.6.3～4：　第2回接着研究発表会（共催）大阪科学技術センター

3) 39.6.27：　第1回土質化学に関する特別講演(協賛)早稲田大学小野記念講堂

4) 39.8.24～28：　第2回国際水質汚濁研究会議（共催）日本都市センター

5) 39.9.7～8：　第 14 回応用力学連合講演会（共催）京都大学工学部

6) 39.9.9～10：　第8回材料試験連合講演会（共催）京都大学工学部

7) 39.9.17：　クイ打ち作業標準説明会（協賛）札幌自治会館および名古屋市公会堂

8) 39.10.1～4：　第 13 回レオロジー討論会（共催）岡山大学法文学部中講堂

9) 39.10.26～30：第3回宅地造成技術講習会（共催）日本消防会館ホール

10) 39.11.11～12：岩の力学国内シンポジウム（共催）毎日ホール

11) 39.11.27：　第 11 回橋梁構造工学研究発表会(共催)日本建築学会会議室

12) 39.12.15：　第 11 回風に関するシンポジウム(共催)気象庁講堂

13) 40.2.15～16：第3回原子力総合シンポジウム（共催）学士会館

VI. 支部行事

（1） **北海道支部**　支部長　酒井忠明君

1. 総　会　39.4.30　礼商ビル
2. 役員会　3回
3. 幹事会　7回
4. 評議員会　3回
5. 支部事務運営委員会　1回
6. 支部奨励賞選考委員会　1回
7. 刊行物編集委員会　4回
8. 講演会

1) 39.4.10：　北海道大学クラーク会館　講演数1題　映画3編　参加者600名

2) 39.8.5：　新進技術者の帰朝報告（土質工学会と共催）札商ビル　講演数2題　参加者100名

3) 39.9.30：　帰朝報告（土質工学会と共催）婦人会館　講演数　2題　参加者 80 名

4) 39.10.6：　講演と映画（土質工学会と共催）婦人会館　講演数　1題　映画　1編　参加者　300 名

5) 39.11.10：　創立 50 周年記念講演と巡回映画　自治会館　講演数　1題　映画　4編　参加者400名

6) 39.12.8～9：　東海道新幹線完成講演と映画（共催；日本鉄道技術協会・日本機械学会・土質工学会）札鉄集会場　講演数　3題

映画　2編　参加者400名

9. 講　習　会

1) 39.8.17～19：　コンクリート講演会（共催；日本セメント技術協会）北海道大学クラーク会館　題目　11題　参加者360名

2) 40.2.23：　年次講習会　札幌市民会館　題目　3題　参加者 70 名

10. 研究発表会

1) 40.2.22：　札幌市民会館　発表数　23 題 参加者 100 名

11. 見　学　会

1) 39.7.3：　第1回見学会　中山峠・洞爺湖・苫小牧工業港見学　参加者　76 名

2) 39.10.1～2：　第2回見学会　野花南トンネル・金山ダム等見学　参加者 50 名

12. 映　画　会

1) 39.9.10：　学生のための映画会（土質工学会と共催）北海道大学クラーク会館　参加者 600 名

2) 39.11.10：　本部巡回映画会　札幌市　参加者 600 名

3) 39.11.11：　本部巡回映画会　釧路市　参加者 300 名

13. 刊　行　物

1) 40.2.20：　発行　技術資料 21 号　1500部

2) 40.2：　発行　講習会テキスト　300部

（2）東北支部　支部長　金子収事君→佐藤　史君

1. 総　会（39.6.26）セントラルホテル
2. 役員会　1回
3. 幹事会　3回
4. 会計監査　1回
5. 第 50 回総会会計監査　1回
6. 第 50 回総会収支決算報告会　1回
7. 支部長送別会　1回
8. 講　演　会

1) 40.2.1：　海外の土木技術を視察して　日立ファミリーセンター　講演数　3題　参加者 80 名

9. 講　習　会

1) 39.8.27：　夏期講習会（共催；土質工学会・日本建築学会・農業土木学会）題目　5題

10. 技術講座

1) 40.3.1：　宮城県民会館　題目　3題　参加者 150 名

2) 40.3.23：　宮城県民会館　題目　1題　参加者 300 名

11. 技術研究発表会

1) 40.3.24：　宮城県民会館　発表数　15 題　参加者 200 名

12. 見　学　会

1) 40.11.5～6：　八郎潟干拓・寒風山有料道路等見学　参加者 27 名

13. 映　画　会

1) 39.11.12：　本部巡回映画会　日の出会館ホール　映画：4編　参加者 500 名

（3）関東支部　支部長　当山道三君

1. 総　会（39.4.30）発明会館
2. 幹事会　7回
3. 見学会

1) 39.9.10：　第1回見学会　東海道新幹線試乗見学　参加者 880 名

3) 39.10.27：　秋のエキスカーション　矢木沢ダム見学　参加者 60 名

3) 40.2.15：　シールド工法見学会　東京都下水道幹線工事見学　参加者 41 名

4. 映画会（学生）

1) 39.5.16：　第1回映画会　土木学会会議室　参加者 30 名

2) 39.6.20：　第2回映画会　土木学会会議室　参加者 30 名

3) 39.7.18：　第3回映画会　土木学会会議室　参加者 25 名

（4）中部支部　支部長　井上幸太郎君

1. 総　会（39.4.25）岐阜市商工会議所
2. 役員会　4回
3. 幹事会　11 回
4. 講演会

1) 39.4.25：　総会にともなう記念講演会　岐阜商工会議所　講演数：1題　参加者250名

2) 39.6.9：　サニー氏（アイオワ大学教授）による特別講演会　愛知県産業貿易会館　講演数　1題　参加者 125 名

3) 39.7.25：　愛知県産業貿易会館　講演数　2題　映画　1編　参加者 55 名

4) 39.11.14：　50 周年記念事業講演と映画会（第1会場）石川県金沢市農業会館　講演数　1題　映画　4編　参加者　80 名

5) 39.11.27：　50 周年記念事業講演と映画会（第2会場）名古屋工業大学講堂　講演数1題　映画　4編　参加者 870 名

5. 講　習　会

1) 40.2.25：　水理公式集の解説と例題に関する講習会　愛知文化会館第1集合室　題目　1題　参加者 230 名

6. 研究発表会

1) 39.10.15：　名古屋工業大学土木教室　特別講演　1題　発表数　36 題 参加者 85 名

7. 技術講座

1) 39.9.25～26：　愛知県文化会館　題目　3題　他に実地見学　参加者 125 名

8. 見学会（一般）

1) 39.4：　総会にともなう見学会　伊吹山ドライブウェイ見学

2) 39.6.5：　第1回見学会　名神高速道路一宮インター，小牧インター等見学　参加者99名

3) 39.8.31：　第2回見学会　東海道新幹線見学試乗　参加者 146 名

4) 39.10.30：　第3回見学会　堀留橋建設工事のHWくい打工法見学　映画　3編　参加者 75 名

5) 39.12.4：　第4回見学会　愛知用水公団豊川用水路見学　参加者 75 名

6) 40.3.19　第5回見学会　名阪国道建設工事見学　参加者 110 名

9. 見学会（学生）

1) 39.4.1～3：　金沢大学生のための見学会　東京地方見学　参加者 21 名

2) 39.5.20～23：　信州大学生のための見学会　東京地方地下鉄・横河橋梁・高速道路等見学　参加者　4年生

3) 39.11.17：　岐阜大学生のための見学会　名古屋市地下鉄工事および名古屋港等見学　参加者 70 名

4) 40.2.13：　名古屋工業大学生のための見学会　山崎下水処理場・大治浄水場等見学　参加者 50 名

5) 40.3.24～25：　名古屋大学生のための見学会　京阪神地方見学　参加者 35 名

10. 懇　親　会

1) 39.4.25：　総会懇親会　岐阜市「十八楼」参加者 70 名

（5）関西支部　支部長　山 崎　　博君

1. 総　　会（39.5.8）中央電気倶楽部
2. 商議員会　5回
3. 幹 事 会　12 回
4. 土木賞および吉田賞候補論文支部推薦詮衡委員会 2回
5. 支部選出理事，幹事詮衡評議員打合会　1回
6. 役員候補者選考委員会打合会　1回
7. 関西地区評議員懇談会　1回
8. 講　演　会

1) 39.5.8：　総会にともなう講演会　中央電気倶楽部　講演数　2題　参加者 69 名

2) 39.9.23：　モステルトマン教授講演会（土木学会水理委員会と共催）　京都大学工学部　講演数　2題　参加者 30 名

3) 39.10.9：　奈良県における総合開発の諸問題についての講演会（奈良県建設技術協会と共催）　奈良市庁別館　講演数　3題　映画　2編　参加者 226 名

4) 39.11.15：　関西支部年次学術講演会　神戸大学工学部　特別講演数　1題　一般講演数 78 題　参加者　288 名

5) 39.12.14：　滋賀県における建設開発の諸問題についての講演会(滋賀県建設協会と共催)　滋賀会館　講演数　3題　映画　1編　参加者 350 名

6) 40.1.18：　海外事情講演会　好文倶楽部　講演数　4題　参加者 169 名

9. 講　習　会

1) 39.7.20～8.1：水工学に関する夏期研修会（土木学会水理委員会と共催）京都大学工学部
Aコース　(7.20～7.25) 題目　4題　特別講演数　4題　参加者 72 名
Bコース　(7.27～8.1)　題目　4題　特別講演数　4題　参加者 42 名

2) 39.8.6～8：　破壊の機構についての講習会（共催9団体）大阪科学技術センター　題目 11 題　参加者 175 名

3) 39.11.26～27：「土質試験法」「土質調査法」講習会（土質工学会に協賛）大阪府職員会館　題目　22 題　参加者 312 名

4) 40.2.25：　講習会・水理公式集の解説（土木学会中部支部と共催）愛知県文化会館　題目　4題　参加者 230 名

5) 40.3.23～24：　土質改良工法講習会（日本材料学会と共催）大阪府職員会館　題目　11 題　参加者 418 名

6) 40.3.25～26：　地震と地盤に関する講習会（協賛）大阪科学技術センター　題目　8題　参加者 195 名

10. 研　究　会

1) 39.10.27：　道路照明および保安設備に関する研究会　大阪合同庁舎別館　講演数　3題　参加者 131 名

11. 研究発表会：

1) 39.6.3～4：　第2回接着研究発表会（共催11団体）大阪科学技術センター　特別講演数　2題　発表数　30 題　参加者 430 名

2) 39.11.19～21：第7回溶射技術講演および研究発表会（協賛）大阪府立工業奨励館　講演数　2題　発表数　10 題　参加者 83 名

12. 見学会（一般）

1) 39.4.21：　第1回見学会　住友金属工業和歌山製鉄所高炉・圧延工場・製管工場等見学　参加者 87 名

2) 39.4.25：　第2回見学会　神戸市埋立事業局鉢伏山土取現場・空中コンベヤーの輸送状況　参加者　71 名

3) 39.7.20～8.1　水工学に関する夏期研修会にともなう見学会
Aコース研修者による見学会　参加者 72 名
Bコース研修者による見学会　参加者 42 名

4) 39.8.9～10：　第3回見学会　国鉄新幹線見学および試乗　参加者 391 名

5) 39.10.4：　第4回見学会　名神高速道路醍ケ井養場，関ケ原古戦場，伊吹山登山道路，琵琶湖大橋等見学　参加者 78 名

13. 見学会（学生）

1) 39.11.8：　第1回見学会　神戸市埋立事業局鉢伏山土取現場輸送，積出状況埋立地区見学　参加者 152 名

2) 39.11.14：　第2回見学会　阪神高速道路工事，大阪市地下鉄工事等見学　参加者 68 名

14. 映画会（学生）

1) 39.4.18：　第1回映画会　大阪大学工学部　映画　5編　参加者 95 名

2) 39.10.17：　第2回映画会　大阪大学工学部　映画　4編　参加者 65 名

3) 39.10.24：　第3回映画会　大阪工業大学　映画7編　参加者 255 名

4) 39.10.31：　第4回映画会　大阪市立大学工学部　映画　7編　参加者 54 名

5) 39.11.7：　第5回映画会　京都大学工学部　映画　3編　参加者 165 名

6) 39.10.21～22：第6回映画会　神戸大学工学部（1日目）明石工業高等専門学校（2日目）映画　4編　参加者 265 名
7) 39.12.12：第7回映画会　京都大学工学部　映画　4編　参加者 110 名
8) 40.1.23：第8回映画会　京都大学工学部　映画　4編　参加者 100 名

15. 映画会（一般）
1) 39.11.9：本部巡回映画会（神戸地区）
第1回　御影公会堂　参加者 730 名
第2回　生田公会堂　〃　350 名
第3回　〃　〃　300 名
第4回　〃　〃　100 名
2) 39.11.20：本部巡回映画会（京都地区）
第1回　伏見工高　参加者 375 名
第2回　〃　〃　180 名
第3回　〃　〃　230 名
3) 39.11.21～22：本部巡回映画会（大阪地区）
1日目
第1回　都島工高　参加者 750 名
第2回　天王寺中学　〃　280 名
第3回　児童文化会館　〃　60 名
2日目
第1回　桜宮公会堂　参加者 170 名
第2回　〃　〃　80 名
第3回　〃　〃　50 名

16. 懇親会・懇談会・その他
1) 39.5.8：総会にともなう懇親会　中央電気倶楽部　参加者 57 名
2) 39.7.20～8.1：水工学に関する夏期研修会懇談会　京都大学工学部　参加者 延 114 名
3) 39.10.9：奈良県における総合開発の諸問題についての講演会にともなう懇親会　春日野荘　参加者 27 名
4) 39.11.10：土木学会創立 50 周年記念東海道バス旅行見学会交歓会　シルバーレストラン　参加者 50 名
5) 39.12.14：滋賀県における建設開発の諸問題についての講演会にともなう懇親会　滋賀会館ロビー　参加者 39 名
6) 40.1.18：会員懇親会　好文倶楽部 参加者 83 名
7) 40.3.24：講師懇談会　阪急百貨店特別食堂　参加者 20 名
8) 39.8.5：土木学会誌関西支部特集号懇談会　土木学会関西支部事務局　参加者 6 名

（6）中国四国支部　支部長　内 林 達 一君
1. 総　会（39.12.2～3）高知農業会館
2. 役 員 会　1回
3. 幹 事 会　10 回
4. 講 演 会
1) 39.4.8：第1回講演会　広島合同庁舎大会議室　講演数　1題　参加者 140 名
2) 39.4.17：第2回講演会　広島合同庁舎大会議室　講演数　3題　参加者 80 名
3) 39.5.22：第3回講演会　日立ファミリーホール　講演数　2題　参加者 120 名
4) 39.9.14：第4回講演会　水野組大会議室　講演数　1題　参加者 120 名
5) 39.12.2～3　年次学術講演会　高知農協会館　参加者 180 名
6) 39.12.10：第5回講演会　岡山市民会館　講演数　1題　参加者 50 名
7) 40.2.19：第6回講演会（新潟地震について）広島大学会館大集会室　講演数　3題　参加者 150 名

5. 講 習 会
1) 39.10.8～9：第1回講習会　水野組大会議室　題目　4題　参加者 90 名

6. 見 学 会
1) 39.7.15：第1回見学会　中国電力中広島変電所リバースサーキュレーション見学　参加者 32 名
2) 39.7.20：第2回見学会　東洋工業・三沢高速自動車試験所見学　参加者 42 名
3) 39.9.18：第3回見学会　須磨土取場施設現場見学　参加者 23 名
4) 39.12.4：第4回見学会　魚梁瀬ダム見学　参加者 33 名
5) 40.2.9：第5回見学会　東洋工業;自動車工場・さく岩機工場専用橋見学 参加者108名

7. 映 画 会
1) 39.11.26：本部巡回映画会　水野組大会議室　映画　4編　参加者 300 名

8. 優秀卒業生表彰
1) 39.3：大学工学部　3校3名　短期大学　1校1名　高等学校　17 校 18 名

（7）西部支部　支部長　宇 野 周 三君
1. 総　会（40.1.27）　明治生命ホール
2. 役 員 会　4回
3. 幹 事 会　4回
4. 土木学会第 51 回総会担当機関打合せ会　1回
5. 土木学会第 51 回総会担当別小委員会　1回
6. 本部支部打合せ会　1回
7. 地区評議員会　1回
8. 講 習 会
1) 39.8.20：南阿蘇国民宿舎　題目　11 題　参加者 110 名

9. 研究発表会
1) 39.12.10：新材料新工法発表会　明治生命ホール　発表数　9題　参加者 173 名
2) 40.1.27：研究発表会　明治生命ホール　発表数 21 題

10. 見 学 会
1) 39.8.21：別府阿蘇横断道路見学　参加者 110 名

11. 映 画 会
1) 39.5.20：熊本市九電別館　映画　4編　参加者 294 名
2) 39.5.22：宮崎市自治会館　映画　4編　参加者 129 名
3) 39.10.31：九州大学防音教室　映画　2編　参加者 35 名
4) 39.11.14：九州大学防音教室　映画　5編　参加者 180 名
5) 39.11.17：熊本市九電別館　映画　5編　参加者

260 名

6) 39.11.19：　宮崎県立図書館　映画　5編　参加者 70 名

7) 39.11.25：　本部巡回映画会と講演会　明治生命ホール　映画　4編　講演数　1題　参加者 350 名

8) 40.2.19：　九州電力ホール　映画　参加者 100 名

9) 40.2.23：　九州電力ホール　映画　参加者 220 名

10) 40.2.25：　佐賀市　映画　参加者 200 名

11) 40.2.27：　長崎市　映画　参加者 190 名

12. 土木学会 51 回総会プログラム作成打合会

VII. 会員年間統計

年別＼会員別	正会員	特別会員 特級	1級A	1級B	1級C	1級D	2級	計	名誉会員	賛助会員	学生会員	合計
39.3	14 593	17	16	48	228	340	31	680	49	30	1 927	17 279
40.3	16 336	18	16	46	214	341	43	678	54	30	2 791	19 889
増減	+1 743	+1	0	−2	−14	+1	+12	−2	+5	0	+864	+2 610

議案 2. 昭和 39 年度決算報告 (自昭和39年4月1日～至昭和40年3月31日)

銭理事より説明があり承認された。

I. 普通会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 会費	37 252 356	1. 用地費	566 917
1. 正会員	22 990 454	2. 事務費	23 567 908
2. 学生会員	1 759 935	1. 人件費	18 432 358
3. 特別会員	12 501 967	2. 備品消耗品費	1 357 197
2. 論文集購読料	1 599 849	3. 通信費	1 992 790
3. 刊行物	30 828 388	4. 水道光熱費その他	1 785 563
1. 既刊行物	26 311 550	3. 会費徴収費	1 176 802
2. 新刊行物	4 516 838	4. 公租公課費	668 534
4. 行事費	1 430 100	5. 会議費	2 276 107
1. 講演会	44 400	1. 総会	704 766
2. 講習会	1 375 500	2. 役員会	1 571 341
3. 見学会	10 200	6. 支部交付金	5 795 472
5. 広告収入	20 671 860	7. 会誌発行費	25 799 771
1. 学会誌	18 239 360	8. 論文集発行費	3 852 559
2. 論文集	462 000	9. 刊行物費	22 878 289
3. その他	1 970 500	1. 既刊行物	16 549 517
6. 預金利子その他	1 698 929	2. 新刊行物	6 328 772
7. 受託研究費	32 390 567	10. 行事費	2 198 015
8. 印税	1 715 000	1. 講演会	913 275
9. 雑収入	476 876	2. 講習会	1 284 740
10. 期末棚卸図書	7 415 133	3. 見学会	0
		11. 土木賞費	576 713
		12. 調査研究費	3 698 648
		13. 受託研究費	24 911 698
		14. 図書整備費	41 178
		15. 施設維持費	47 860
		16. 引当金	3 100 000
		17. 渉外費	454 646
		18. 広報費	165 812
		19. 予備費	0
		20. 期首棚卸図書	6 178 511
		21. 受託研究費残額 (預り金勘定に保留)	7 478 869
		22. 当年度剰余金	44 749
合計	135 479 058	合計	135 479 058

II. 吉田賞会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
株式配当金	1 980 000	賞金	100 000
信託預金利子	171 488	奨励金	1 000 000
銀行預金利子	33 000	賞牌製作費	24 000
前年度繰越金	903 348	委員会費	275 840
		事務費	72 245
		論文審査料	109 400
		次年度へ繰越金	1 506 351
合計	3 087 836	合計	3 087 836

III. 貸借対照表

(昭和 40 年 3 月 31 日現在)

資産の部 (借方) 科目	金額	負債の部 (貸方) 科目	金額
1. 現金	43 440	1. 基金	28 151 773
2. 預金	15 872 237	1. 基金	7 773 013
3. 有価証券	27 966 400	2. 吉田博士記念基金	20 378 760
4. 売掛金	3 797 274	2. 事務所及設備基金	9 659 297
5. 未収入金	14 791 960	3. 図書館建設基金	41 233 260
6. 棚卸図書	7 415 133	4. 引当金	2 273 166
7. 仮払金	2 240 053	5. 未払金	5 447 308
8. 前払金	497 288	6. 預り金	13 242 827
9. 建物及諸施設	8 037 241	7. 前受金	1 838 864
10. 什器及備品	2 187 336	8. 仮受金	1 709 643
11. 建設仮勘定	41 233 260	9. 吉田賞資金	1 506 351
		10. 50周年記念会計	8 080 107
		11. 繰越金	10 939 026
合計	124 081 622	合計	124 081 622

IV. 財産目録

(昭和 40 年 3 月 31 日現在)

資産の部 科目	金額	負債の部 科目	金額
1. 現金	43 440	1. 未払金	5 447 308
2. 預金	15 872 237	2. 預り金	13 242 827
3. 有価証券	27 966 400	3. 前受金	1 838 864
4. 売掛金	3 797 274	4. 仮受金	1 709 643
5. 未収入金	14 791 960	5. 減価償却引当金	1 673 166
6. 棚卸図書	7 415 133	6. 純資産	100 169 814
7. 前払金	497 288		
8. 仮払金	2 240 053		
9. 建物及諸施設	8 037 241		
10. 什器及備品	2 187 336		
11. 建設仮勘定	41 233 260		
合計	124 081 622	合計	124 081 622

V. 仮勘定

(昭和 40 年 3 月 31 日現在)

借方 科目	金額	貸方 科目	金額
仮払金	1 758 618	預り金	13 242 827
立替金	481 435	前受金	1 838 864
前払金	497 288	仮受金	1 709 643
合計	2 737 341	合計	16 791 334

VI. 引　当　金

（昭和40年3月31日現在）

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 前年度繰越額	1 764 771	1. 引当金取崩額	2 591 605
1. 減価償却引当金	1 173 166	1. 退職手当引当金	2 000 000
2. 50周年記念出版準備金	591 605	2. 50周年記念出版準備金	591 605
2. 本年度受入	3 100 000	2 次年度へ繰越	2 273 166
1. 建物及諸施設引当金	500 000	1. 減価償却引当金	1 673 166
2. 退職手当引当金	2 000 000	2. 名簿発行引当金	600 000
3. 名簿発行引当金	600 000		
合計	4 864 771	合計	4 864 771

VII. 基　金　内　訳

（昭和40年3月31日現在）

基金名称	基金額
1. 故古市公威 〃沖野忠雄 両博士記念基金	25 391
2. 〃白石直治博士 〃	22 512
3. 〃山崎鉉次郎 〃 〃	2 389
4. 〃原田貞介 〃 〃	4 663
5. 〃広井勇 〃 〃	14 987
6. 〃小川梅三郎 〃 〃	1 574
7. 〃富田保一郎 〃 〃	788
8. 〃石黒五十二 〃 〃	10 037
9. 〃近藤虎五郎 〃 〃	12 448
10. 〃中島鋭治 〃 〃	4 664
11. 〃阪田貞明 〃 〃	1 753
12. 〃岡崎芳樹 〃 〃	2 789
13. 〃太田円三 〃 〃	3 680
14. 〃阪本雅雄 〃 〃	852
15. 〃川上浩二郎 〃 〃	1 169
16. 〃中山秀三郎 〃 〃	2 354
17. 〃岡崎文吉 〃 〃	1 476
18. 〃野口誠 〃 〃	1 161
19. 〃中川吉造 〃 〃	3 476
20. 〃黒河内四郎 〃 〃	1 053
21. 〃広井勇 〃 土木賞牌基金	730
22. 〃古市公威 〃 〃	596
23. 〃来島良亮 〃 〃	591
24. 〃中山秀三郎 〃 〃	588
25. 〃物部長穂 〃 〃	695
26. 〃藤井真透 〃 記念基金	100 000
27. 〃真田秀吉 〃 〃谷口三郎工学士 〃青山士 〃 〃	700 000
28. 日本発送電株式会社	5 000 000
29. 諸積立金	1 822 901
30. 関西支部維持基金	27 696
31. 吉田徳次郎博士記念基金	20 378 760
合計	28 151 773

VIII. 50 周年記念事業会計

中間報告書

（昭和40年3月31日現在）

科目	予算額	実績額	残額（次年度実施予定額）
収入の部			
1. 寄付金	70 000 000	69 931 009	68 991
2. 銀行預金利子	400 000	133 055	266 945
3. 記念行事収入	800 000	360 500	439 500
4. 記念出版物売上	4 990 000	906 014	4 083 986
計	76 190 000	71 330 578	4 859 422
支出の部			
1. 土木図書館建築費	45 000 000	41 233 260	3 766 740
2. 図書購入費	5 000 000	3 814 840	1 185 160
3. 図書館整備費	2 500 000	1 182 317	1 317 683
4. 記念行事費	5 600 000	3 685 015	1 914 985
5. 記念出版物費	14 990 000	10 251 731	4 738 269
6. 諸経費	3 100 000	3 083 308	16 692
計	76 190 000	63 250 471	12 939 529
収支差引		8 080 107	

上記昭和 39 年度決算報告書（普通会計，吉田賞会計，50周年記念事業会計（中間報告書）），貸借対照表，財産目録，付属明細表を監査の結果適正妥当と認めます。

昭和 40 年 5 月 7 日

監事　武内　修 ㊞

同　小林嘉道 ㊞

議案 3. 定款一部改正の件

羽田専務理事より説明があり原案どおり承認された。

定款第 12 条中「副会長 3 名」を「副会長 4 名」と改正する。

（参考）

第 12 条　この学会に，つぎの理事および監事をおく。

1. 理　事　25 名以上 30 名以内，うち会長 1 名，副会長 3 名および専務理事 1 名
2. 監　事　2 名

議案 4. 名誉会員の推挙

福田会長よりつぎのとおり候補者を推せん，承認されたので名誉会員の紹介があり，推挙状が送られた。

名誉会員（五十音順）

Arthur Ippen 君	アメリカ　マサチュセッツ工科大学教授
Leopold Escande 君	フランス学士院会員　ツールーズ大学教授
岡田信次君	攻玉社短期大学長
菊池明君	橋梁コンサルタントKK社長
久保田豊君	日本工営KK社長
近藤泰夫君	京都大学名誉教授
永田年君	東京電力KK顧問
野田誠三君	阪神電鉄KK社長

福田会長より推挙状を受ける近藤新名誉会員（左側）

■報告　評議員会の決議事項

羽田専務理事より説明があり了承された。

1. 役員候補者選考内規：40.1.21 臨時評議員会 可決

組織　地区評議員代表で委員会を組織し選考する。

理事の定数を 28 名から 30 名に増加しつぎのとおり配分

会長 1名，副会長 3名，専務理事 1名　計 5名

職域別 5名

地域別 20名

北海道　2名　　東　北　2名　　関　東　6名
中　部　2名　　関　西　4名　　中・四　2名
西　部　2名

2．定款の一部改正：40.3.30　定例評議員会　可決
総会議案3　省　略

3．規則の一部改正：40.3.30　定例評議員会　可決
規則第 18 条につぎの但し書を追加する。
但し定数100名を越える場合は定数100名を各支部所属会員数に比例して按分する。
（参考）
定款第 18 条　この学会に，75 名以上 100 名以内の評議員をおく。
規則第 18 条　評議員の被選挙者定数は，その年の1月末日現在における各支部所属の会員200名につき1名の割合とし，端数は4捨5入とする。

4．昭和 40 年度事業計画と予算：40.3.30　定例評議員会　可決

昭和 40 年度事業計画書

学術，技術の進歩を図るため，各種調査研究活動を活発に行ない会誌，論文集の充実，改善および新刊図書の刊行を図り，研究発表会，講演会，講習会，見学会等の行事をさかんにし，海外との連けいを一層密にして，学術技術および土木事業の進歩発展に寄与する。
また，正会員および特別会員の増加運動も積極的に行ない，本会の充実をはかる。
本年度の主なる事業は，つぎのとおりである。

1）総　　会：40.5.28　福岡市
昭和 39 年度事業報告および決算報告
定款の一部改正　　名誉会員の推挙
土木賞および吉田賞，同研究奨励金の授与　　新理事，監事の紹介　　評議員の議決事項報告

2）評議員会
4月末日まで　　半数改選
5月　　定例会議
総会提出議案の審議
41 年3月　　定例会議
昭和 41 年度事業計画および予算

3）理　事　会
毎月1回　　会務決定
5月　　理事，監事半数改選

4）支部長および支部幹事長会議
支部長会議　　不定期　1回
支部幹事長会議　　〃　　2回

5）各種委員会
1．土木賞委員会：土木賞候補の募集および選考を行なう。
2．吉田賞委員会：吉田賞および吉田研究奨励金の候補の募集および選考を行なう。
3．学術講演連絡委員会：各委員会と連絡をとり，講演会，講習会，見学会等を企画調整するほか他学協会との共催行事の企画調整を行なう。
4．大学土木教育委員会：昭和 38 年7月委員会発足以来調査を続けてきた「大学卒業生の活躍状況」と「大学土木教育の実情」を総括検討して報告書を作成し，問題点を明らかにする。
5．高校土木教育研究委員会：高校土木教育の調査研究，および既刊土質実験指導書，土木材料実験指導書の改訂ならびに水理実験指導書の編集を行なう。
6．会誌編集委員会：土木学会誌第 50 巻5号～第 51 巻4号の編集を行ない，内容の充実をはかる。
7．論文集編集委員会：土木学会論文集第 116 号～第 127 号を編集する。なお，討議欄を充実する。
8．出版企画委員会：出版物の企画，調整を行なう。なお，委員会関係編集をのぞく，主要新刊出版物はつぎのとおりである。
工事報告　大鳥セミアーチダム・一ツ瀬，杉安アーチダム・黒部第四発電所
9．文献調査委員会：内外文献を調査整理し，抄録および目録の作成ならびに海外の学術的展望記事を学会誌に掲載する。
10．土木図書館運営委員会：図書文献資料，フィルム等の収集整備，その他図書館の運営に関与する。
11．土木製図規格委員会：昭和 28 年制定の土木製図基準の改訂準備を行なう。
12．日本土木史編集委員会：大正元年から昭和 15 年までの日本土木史を編集する。なお，昭和 16 年以降についても編集を行なう。
13．土木工学叢書委員会：土木工学叢書を編集する。
14．海外連絡委員会：国際会議の連絡，土木関係の来朝者の斡旋等を行なうほか，Civil Engineering in Japan 1965 年を編集し，わが国の学術，技術を海外にPRするとともに国外との交流をはかる。
15．水理委員会：第2回水工学夏期研修会を8月上旬に札幌で，第 10 回水理講演会を 41 年2月上旬東京で開催する。UNESCO の IHD 計画の実施，来朝著名研究者の講演会開催，第 12 回国際水理学会議の 1969 年日本開催を目標に努力する。
16．海岸工学委員会：第 12 回海岸工学講演会を 10 月に名古屋で開催，同講演集および英文論文集（Coastal Engineering in Japan 8）を編集刊行，海岸保全施設設計便覧の改訂に努力するほか 1966 年9月第 10 回海岸工学国際会議を日本で開催することに協力する
17．耐震工学委員会：耐震工学の調査研究，第8回地震工学研究発表会を東京で開催，同概要集および土木振動学便覧を編集する。本州四国連絡橋技術調査委員会耐震小委員会等委託関係の委員会，新潟震災調査委員会等に協力をする他国内外の連絡を行なう。
18．新潟震災調査委員会：新潟震災の記録を編集する。
19．橋梁構造工学委員会：第 12 回橋梁構造研究発表会を東京で日本学術会議および日本建築学会と共催する。
20．トンネル工学委員会：既刊トンネル工学標準示方書，同解説を検討して改訂準備を行なうほかトンネル工学に関する調査研究を行ない，随時シンポジウム，見学会等を開催する。
21．岩盤力学委員会：地質，岩の試験，応用，理論解析，トンネルの5部門に分け引続き調査研究を行ない「工事報告　川俣アーチダム」および「岩盤力学」として編集するほか，東京で第3回岩盤力学に関するシンポジウムを開催する。
22．衛生工学委員会：衛生工学の調査研究と国内外の連絡を行なうほか，10 月東京で第2回研究発表会を開催概要集を編集する。
23．原子力土木技術委員会：原子力の土木技術の調査研究

を行なう。原子力関係学協会と第4回原子力研究総合発表会を共催するほか，原子力関係コンクリート小委員会に協力する。

24. コンクリート委員会：コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する調査研究の総括的問題を処理し，小委員会，分科会等により専門的な調査研究を活発に行なう一方，従来に引続き原子力，フライアッシュ，軽量骨材等コンクリート関係の委託研究を行なう。また，4月に第2回異形鉄筋に関するシンポジウムを東京で行なうなど随時コンクリートに関するシンポジウム，講演会等を開催し，この方面の啓蒙を図る。コンクリート・ライブラリーについては，第13号「プレパックトコンクリート施工例集」を年度当初にまた引続きシンポジウム結果その他を編集する。日本コンクリート会議において，国際的な問題，コンクリート連合委員会において土木学会，日本建築学会の共通な問題の処理等に積極的に協力する。

(1) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

(2) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

上記小委員会および分科会の活動によりコンクリート標準示方書の改訂を行なう。

(3) プレストレストコンクリート小委員会：プレストレストコンクリート設計，施工指針の次期改訂に備え設計，施工，コンクリート，鋼材，グラウトの5分科会に分けてそれぞれ専門的に調査研究を行なう。

25. 受託研究の予想される委員会：

(1) 本州四国連絡橋技術調査委員会；建設省，日本鉄道建設公団の共同委託により，本州四国連絡橋に関し技術的検討を行なう。

(2) コンクリート委員会；① 原子力関係コンクリート小委員会・科学技術庁委託，放射性廃棄物の海中投棄容器に関する研究。② フライアッシュ小委員会・フライアッシュ協会委託，フライアッシュを混入したコンクリートの中における鉄筋の錆に関する長期研究。③ 構造用軽量骨材に関する研究小委員会，軽量骨材製造会社3社の委託により，構造用軽量骨材に関する実験研究を行なう。

(3) 八郎潟干拓船越水道計画施行研究委員会；農林省委託により，干拓工事の諸問題を調査研究

(4) 河北潟干拓河口工事研究委員会；農林省北陸農政局委託により，河口工事に関する研究

6) 行　事

4月　異形鉄筋に関するシンポジウム　(東京)
　　第2回理工学における同位元素研究発表会（共催東京）

5月　第20回年次学術講演会および見学会（福岡および九州）

8月　第2回水工学夏期研修会　(札幌)
　　夏期講習会「構造工学における最近の諸問題」(東京)

9月　第15回応用力学講演会　(共催東京)
　　第9回材料試験連合講演会　(　〃　)
　　第8回地震工学研究会　(東　京)

10月　第12回海岸工学講演会　(名古屋)
　　第2回衛生工学研究発表会　(東　京)
　　レオロジー討論会　(共催東京)
　　第12回橋梁構造研究発表会　(共催東京)

11月　第3回岩盤力学に関するシンポジウム　(東　京)
　　風に関するシンポジウム　(共催東京)

2月　第10回水理講演会　(東　京)
　　第4回原子力研究総合発表会　(共催東京)

随時講演会，シンポジウム，講習会，見学会。

各支部，講演会，シンポジウム，講習会，見学会，映画会，学生のための催等を定期または随時開催。

昭和40年度（自昭和40年4月1日 至昭和41年3月31日）予算

1. 普通会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 会費	41 194 000	1. 用地費	567 000
1. 正会員	25 266 000	2. 事務費	26 555 000
2. 学生会員	2 495 000	1. 人件費	21 397 000
3. 特別会員	13 433 000	2. 旅費	400 000
2. 論文集購読料	1 728 000	3. 備品消耗品費	1 600 000
3. 刊行物	41 134 000	4. 通信費	1 642 000
1. 既刊	14 428 000	5. 光熱，水道料	806 000
2. 新刊	26 706 000	6. 福祉厚生費	250 000
4. 行事費	3 180 000	7. 手数料	260 000
1. 講習会	3 080 000	8. 雑費	200 000
2. 見学会	100 000	3. 会費徴収費	1 280 000
5. 広告料	25 100 000	4. 公租公課	783 000
1. 学会誌	18 700 000	5. 会議費	3 184 000
2. 論文集	500 000	1. 総会	1 100 000
3. 学会名簿	4 000 000	2. 役員会議	2 084 000
4. その他	1 900 000	6. 支部交付金	6 360 000
6. 預金利子その他	1 556 000	7. 会誌発行費	29 139 000
7. 受託研究費	30 000 000	8. 論文集発行費	4 128 000
8. 印税	896 000	9. 名簿発行費	6 557 000
9. 図書館使用料	120 000	10. 刊行物費	26 688 000
10. 名簿協力金	1 575 000	1. 既刊	7 528 000
11. 雑収入	250 000	2. 新刊	19 160 000
		11. 行事費	3 430 000
		1. 講演会	600 000
		2. 講習会	2 650 000
		3. 見学会	180 000
		12. 土木賞費	557 000
		13. 調査研究費	6 055 000
		14. 受託研究経費	27 000 000
		15. 施設維持費	50 000
		16. 引当金	2 500 000
		17. 渉外費	300 000
		18. 広報費	300 000
		19. 雑費	300 000
		20. 予備費	1 000 000
合計	146 733 000	合計	146 733 000

2. 吉田賞会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 東京電力株配当金	1 890 000	1. 賞金	100 000
2. 貸付信託預金利子	214 000	2. 奨励金	1 000 000
3. 銀行預金利子	37 000	3. 賞牌	24 000
4. 前年度より繰越金	1 456 000	4. 受賞者旅費	114 000
		5. 委員会費	211 000
		6. 論文審査費	110 000
		7. 事務費	70 000
		8. 雑費	10 000
		9. 次年度へ繰越金	2 048 000
合計	3 687 000	合計	3 687 000

3．周年記念事業会計

昭和 39 年度予算を引続き昭和 40 年度まで継続実施のこととする。

5．第 50 回通常総会提出議案その他：39.5.12 に定例評議員会　可決　　前掲省略

■表　彰

1．土木賞の授与

福田会長より別掲のごとき授賞理由の報告があり，つぎのとおり土木学会賞および奨励賞を授与した。

土木学会賞

1．駐車実態調査方式の研究（土木学会論文集第 112 号所載）
　　毛　利　正　光　君

1．若戸大橋の調査，設計，施工に関する業績
（参考論文：若戸大橋調査報告書（38 年 10 月）若戸大橋工事報告書（39 年 2 月）日本道路公団福岡支社編，土木学会発行）
　　川　崎　偉志夫　君
　　乙　藤　憲　一　君
　　下　川　浩　資　君
　　池　田　哲　夫　君
　　吉　田　　巌　君

土木学会奨励賞

1．土木工事における PERT 手法の導入と開発に関する業績（参考論文：新しい工事計画と管理の技法（39 年 10 月）—PERT，CPM の理論と使い方—（土木学会誌 49 巻 6 号所載）
　　加　藤　昭　吉　君

1．横荷重・ねじれ・ならびに垂直荷重をうけるつり橋の計算を電子計算機にかけるためのプログラム

1．つり橋ケーブルの水平反力簡易算定法
（土木学会論文集第 102 号，104 号所載）
　　島　田　静　男　君

2．吉田賞および吉田研究奨励金の授与

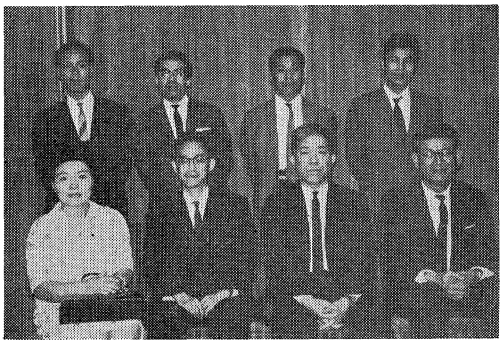
山本委員長欠席のため福田会長より別掲のごとき授賞理由の報告があり，つぎのとおり吉田賞および吉田研究奨励金がつぎの各氏に授与された。

吉　田　賞

1．単純曲げを受ける鉄筋コンクリート桁およびプレストレスト コンクリート桁の極限強さ設計法に関する研究
（北海道大学工学部研究報告 32 号所載）
　　藤　田　嘉　夫　君

受賞者記念写真

（後列左より藤田・加藤・吉田・島田の各氏
前列左より毛利夫人・毛利・川崎・乙藤の各氏）



吉田研究奨励金

1．ＰＲＣ桁のひびわれに対する収縮およびクリープの影響について　　角　田　与史雄　君

1．コンクリート用型枠の構造と締固め効果に関する研究
　　尾　坂　芳　夫　君
　　山　口　良　雄　君
　　林　　博　君

1．ハイアルミナセメントの鉄道工事への応用に関する研究
　　久門田　　環　君
　　本　岡　和　雄　君
　　羽　取　　昌　君

1．ソイル セメントの力学的性質に関する研究
　　川　村　満　紀　君

1．保水性混和材を用いた軽量コンクリート製造について
　　杉　山　嘉　徳　君
　　満　木　泰　郎　君

1．注入によるコンクリートのひびわれの補修方法
　　町　田　篤　彦　君

1．低温下におけるコンクリートの性状に関する基礎研究
　　吉　田　弥　智　君

■新任理事および監事の紹介

福田会長より 40 年度新役員の紹介があった。

新役員（理事・監事）（50 音順）

	新　任	留　任	勤　務　先
会　長	岡部　三郎君		東亜港湾工業ＫＫ社長
副会長		大石　　勇君	前田建設工業ＫＫ取締役副社長
	水野　高明君		九州大学教授工学部長
		山内　一郎君	前建設省建設事務次官
専務理事		羽田　　巌君	社団法人　土木学会
理　事	青木　康夫君		建設省四国地方建設局長
		伊藤　直行君	建設省道路局地方道課長
		板倉　忠三君	北海道大学教授
	宇野　周三君		九州電力ＫＫ土木部長
	内林　達一君		ＫＫ水野組専務取締役
		春日屋伸昌君	中央大学教授
	久保慶三郎君		東京大学教授（生産技術研究所）
	近藤市三郎君		ＫＫ大林組常務取締役
	佐藤　友光君		東京電力ＫＫ建設部土木課長
		斎藤　義治君	日本道路公団高速道路京浜建設局長
		篠原登美雄君	運輸省港湾局建設課長
	多谷　虎男君		東北大学教授
		鍖　　靖司君	松尾橋梁ＫＫ取締役
	富所　強哉君		建設省東北地方建設局企画室長
	友田　清三君		阪神水道企業庁長
	成岡　昌夫君		名古屋大学教授
	藤田　博愛君		東京都水道局利根川建設本部長

町田　利武君　　北海道開発局建設部長
松尾新一郎君　京都大学教授
耳野　　慎君　　帝都高速度交通営団建設部設計第2課長
村上　　正君　九州大学教授
森垣　常夫君　　日本国有鉄道審議室調査役
八木　健二君　大阪市土木局長
安宅　　勝君　大阪大学教授
渡部　時也君　中部電力KK取締役
監　事　井関　正雄君　　KK熊谷組専務取締役
武内　　修君　名工建設KK社長

以上をもって議事を終了し，福田議長の謝辞があり，つづいてつぎの映画が上映され 17 時 10 分散会した。

映画：羽田海底トンネル
大阪環状線
新潟地震

懇親会

5月 29 日 18 時より，10 年ぶりという南国九州での懇親会が福岡市の中心街天神ビル 11 階の大ホールで催された。あいにくの曇り空で，気温も平年より7度も低い 18 度という肌寒い天候にもかかわらず，実に参加者 400 名という盛大さであった。

西部支部評議員篠原教授の司会で，秋竹大会実行委員長の歓迎の挨拶，岡部新会長，福田前会長，鵜崎福岡県知事（代理七田土木部長）らが紹介され，それぞれ特色のある挨拶があった。続いて来賓の挨拶に移り，米田正文元会長，天埜良吉先輩のスピーチがあった後，宇野前西部支部長の発声で乾杯し会食に入った。会員相互の懇親の実を十二分にあげる意味で，白バラにピンクの名入りリボンを下げていただき，立食のパーティ形式にて博多美人のホステスのサービスもほど良く手伝って，次第にアルコールもまわり始めた頃より，相互の各テーブルやコーナーの出店をまわり，旧交新交の花が咲き，「正調博多節，黒田節，おてもやん」などの民謡が披露され，会はますますさかんになり，和やかな雰囲気につつまれた。最後に福岡市長（代理塩塚助役）の発声で万才三唱，19 時 30 分頃盛大なそして和やかな宴を閉じた。

懇親会会場

第 20 回年次学術講演会

年次学術講演会は総会（5月 28 日）の翌 29 日午前中は福岡市民会館で総合講演が，午後および 30 日は一般講演が九州大学で行なわれ非常に盛会であった。

総合講演会

総合講演会は，日本のあけぼの以来大陸の先進文化の玄関口であり，九州の都である博多。ここ新装なった福岡市市民会館で開催された。前日からの雨でうっとおしい中を講演の始まる頃には会員の方々はもちろん，一般市民の参加者もぞくぞくつめかけられた。定刻より，九州大学教授 村上　正氏の司会により，土木学会副会長 水野高明氏の挨拶，のち前会長 福田武雄氏の「橋梁事故物語」と題する講演が始められ，つぎに九州大学教授 鏡山　猛氏による「豊太閤と博多」と題する豊臣秀吉による博多の区画整理などの説明があり，九州・山口経済連合専務理事 浜　正雄氏による「九州地方の総合開発について」そして最後に中大教授 高橋竜太郎氏による「新潟地震をかえりみて」の講演が行なわれた。

終了時には，収容人員 1800 名といわれる当会場もほぼ一杯の有様で，静かなゆったりした雰囲気の中で，熱心にメモされる方々も多く見うけられ，多大の感銘を与えたようであった。また女性の参加を見たのも喜ばしいことである。11 時 30 分盛会のうちに終了した。

一般講演

本年の一般講演は総数 452 編と昨年よりも 59 編も増えこれらを4部門にわけ 10 会場で行なわれ，昨年始めて試みられた一般報告者形式が各部門でとり入れられ，従来の一般報告が減ったことが目立つ。今年の講演会については新聞記者が非常に興味をもち，5月 28 日に行なわれた新旧会長の記者会見の席上でもかなり追込んだ質問があり，一部の講演は地元紙に大きく紹介されていた。また各会場とも昨年にくらべ聴講者もふえ活発に討議が行なわれ非常に盛会であった。本年はつぎの方々に一般報告および司会をお願いした。ご多忙のところご苦労をわずらわせ紙上より厚くお礼申上げる。

一般講演会会場全景

第Ⅰ部門（応用力学・構造力学・橋梁等・106 編）
一般報告者：大地羊三・成岡昌夫・奥村敏恵・倉田宗章・久保慶三郎・後藤尚男・平井　敦・吉村虎蔵・村上　正・小西一郎・山崎徳也・田島二郎・赤尾親助
司会者：倉西　茂・山本　稔・星　治雄・畑中元弘・丹羽義次・芳村　仁・吉田俊弥・伊藤　学・四野宮哲郎・能町純雄・堀井健一郎・菊池洋一

第Ⅱ部門（水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等・136 編）
一般報告者：栗原道徳・足立昭平・伊藤　剛・岸　　力・石原安雄・椿東一郎・岩垣雄一・室田　明・永井

莊七郎・岩崎敏夫・田中　茂・嶋　祐之・合田健・左合正雄・岩井重久

司　会　者：細井正延・春日屋伸昌・日野幹雄・上田年比古・芦田和男・篠原謹爾・堀川清司・吉高益男・井島武士・松尾捨三郎・和田　明・石橋多聞・徳平　淳・松本順一郎・久保　赳・杉木昭典

第Ⅲ部門（土質力学・基礎工学・土木機械・施工等・94 編）

一般報告者：三木五三郎・三笠正人・山口柏樹・赤井浩一・渡辺　隆・伊藤富雄・松尾春雄・竹中準之助・湯浅欽史・村山朔郎・山内豊聡・内田一郎

司　会　者：山門明雄・久野悟郎・市原松平・網干寿夫・最上武雄・谷本喜一・畠山直隆・後藤尚男・後藤正司・西田義親・三瀬　貞・森　麟・原田千三

第Ⅳ部門（鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・交通・都市計画・測量等・116 編）

一般報告者：村田二郎・杉木六郎・水野高明・岡田　清・三瀬　貞

司　会　者：神山　一・西林新蔵・枷場重正・水野俊一・西沢紀昭・堺　毅・明石外世樹・梶原光久・樋渡正美・毛利正光・高田　弘・岡積　清・小野一良

聴　講　者　調　べ

	教室番号	29 日 午後 2 時	30 日 午後 2 時	計
第Ⅰ部門	102 103	116 154	118 148	234 302 } 536
第Ⅱ部門	2 4 9	96 103 186	94 102 188	190 205 374 } 769
第Ⅲ部門	105 106	156 187	162 172	318 359 } 677
第Ⅳ部門	101 104 3	160 62 48	162 82	322 144 48 } 514
計		1 268	1 228	2 496

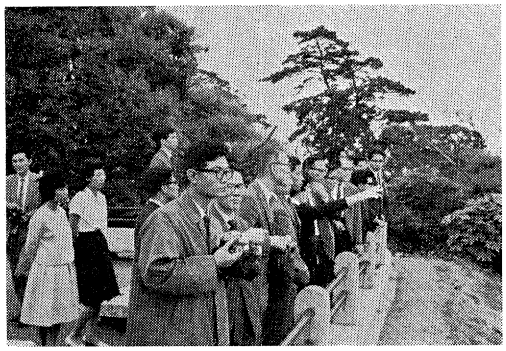
見　学　会

A 班（関門・北九州コース）

講演会終了の翌日5月 31 日には，午前8時30分市民会館前に集合，総員78名が2台のバスに分乗し，夕刻まで見学が行なわれた。幸に天候に恵まれ所期の目的を達することができた。

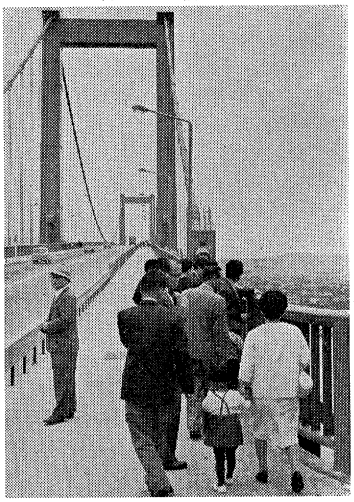
1．**市内遊覧**：福岡市は人口 74 万，面積 240 km², 1587 年に豊臣秀吉によって町ずくりされ，黒田藩の城下町として発展し，今日におよんでいる。西公園，東公園，筥崎の宮を見る。西公園は荒津山公園ともいわれ，明治14年公園に定められ，荒戸の海に臨んだ一孤山の上にあり，山上に荒津神社がある。博多湾を眼下に眺めることができた。東公園（大濠公園）は福岡城の外濠を利用して造られた近代的な水の公園である。明治10年公園に定められた。太公望の釣糸にかかる魚は淡水産も海水産もあり，めずらしいことである。千代の松原の一角にあって，園内には元寇にゆかりの亀山上皇の「敵国降伏」という御聖筆の額が掲げられ，その近くに日蓮上人の銅像が見受けられた。筥崎の宮は延喜式には那珂郡八幡大菩薩筥崎宮，名神大と註せられ，楼門には敵国降伏の額を掲げ，祭神は応神天皇を主神とし，仲哀天皇，神功皇后を合祀してある。社記によれば，延喜 21 年 6 月（921 年）八幡大神の託宣に「末代に至り，異国より我国を伺うことあらば，われ其敵を拒ぐべし。故に敵国降伏の字を書きて，礎のおもて吾座の下に置くべし」とのことで，勅許があり，この神殿を造営されたということである。宇佐，石清水の両八幡宮とともに歴朝の尊信が厚く今日におよんでいる。新拾遺集に「跡たれて幾世経ぬらん箱崎の標の松も神さびにけり」。平安時代の延喜 21 年 6 月（921 年）に黒田長政が築いたといわれている福岡城（筑前全州 52 万石領）を右にしてバスは福岡市をはなれた。なおこの城の外壁は外寇防禦のために博多湾に築かれた石塁をこわして築造されたものと伝えられている。

西公園にて



2．**若戸大橋**：洞海湾の湾口から約 2 km のところに旧若松市と旧戸畑市（今は北九州市となっている）を結んだ近代的つり橋である。長さ（通路 1 388 m，橋梁 680 m），幅（人道 9.0 m，車道 15 m），事業費予算（5 100 000千円）工事開始（昭 33.4），工事完了（昭 37.9），北九州工業都市の灰色の空と青い海の間にくっきりと浮んだ赤いつり橋，この構想，技術は多くの人々を驚嘆させるものがあるといっても過言ではないと思う。

若戸大橋にて



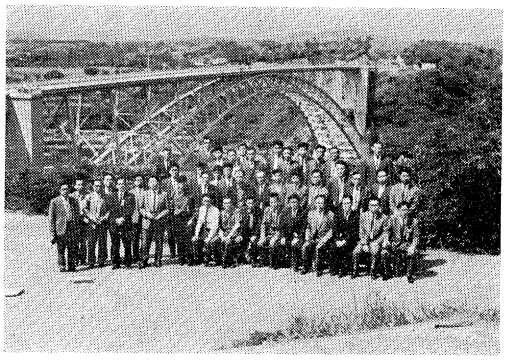
3．**八幡製鉄**：昭和 39 年 4 月現在その資本金が 932 億 5 330 万円，従業員は昭和 39 年 6 月現在 48 187 名という大会社であり，米国，欧州にも事務所を設けている。製鉄所としては現在当地八幡のほか光・堺にも製鉄所があり，当地八幡製鉄所は八幡製鉄所と戸畑製鉄所に分かれている。銑鉄製造能力は八幡 7 850 t/日，戸畑 6 500 t/日，製鋼能力は八幡 1 610 t/日，戸畑 450 t/日，圧延加工能力は八幡 516 000 t/月，戸畑 749 000 t/月程度である。見学団は大谷会館食堂での昼食歓迎会に出席し，八幡製鉄所の軌条工場見学の後戸畑泊地に案内される。荷役能力は鉱石 1 000 t/h，石炭 400 t/h，石灰石 150 t/h，粉鉱 5 t/h である。土木部のご厚意により「八幡製鉄所の港湾について」（昭 40.4）に詳細に記載されていて大変参考になった。つぎに戸畑製鉄所の第3高炉工場では出銑というのであろうか，光り輝く銑鉄のお湯が樋状に切り込んだ溝に流れる様子を見学し，第2分塊工場では鋼塊を分けて使用目的に合う大きさにする工程を詳細に見学することができた。

4. 関門国道トンネル： トンネル延長 3 461.4 m（海底部 780 m，下関陸上部 1 370.4 m，門司陸上部 1 311 m），勾配最急 4%，曲線半径 500 m，覆工（海底部 40～60 cm，陸上部 60～70 cm），車道（幅員 7.5 m，有効高 4.53 m），歩行者自転車道（幅員3.85 m，高 2.54 m），天井（車道と歩行者自転車道との間は厚 28 cm の RC），厚 6 cm の PC 版を使用，事業費 56.642 億円（昭和32年度換算約 80 億円），この内訳は公共事業費 4.66 億円，有料道路事業費 51.982 億円である。わが国における道路トンネルとしては延長，車道幅員とも最大のものであり，世界の水底道路トンネル中では延長，幅員とも二番目である（1934 年完成の英国マーシートンネルは延長 4 629 m，幅員 11.3 m）。福岡県と山口県の県ざかいの長いトンネルを抜けるとすぐ左手に椋野トンネルがあり，下関の港町に出る。昭和 12 年から 20 年，中断してまた昭和 27 年から昭和 33 年まで 14～15 年の間あらゆる困難に打ちかって完工され，有料道路という特別措置を有効に活用されたことを特に感じた。（千葉工大講師　岡　正義・記）

B 班（西九州コース）

前日までの学術講演会のあと，さっぱりした気持で，明媚な大自然のふところに抱かれようというわけである。朝 8 時 15 分の集合は早いが，まずは順調な集合だったようである。雑談のうちに改札時間と成り総員 45 名 8 時 50 分発準急列車「九十九島」号に乗り佐世保に向った。始めのうち曇っていた空も唐津，伊万里，平戸口を過ぎる頃にはすっかり晴れ上り，車窓に流れるこの西海の湾，島々の景色を楽しく眺めることができた。佐世保着 12 時 16 分，長崎県営バスに乗り，まず最初に佐世保市内弓張岳展望台より眼下の佐世保市内，振り返っては箱庭のような九十九島を望み，青く澄み切った空の下絶好の観光日和の中を，戦艦「武蔵」の整備をしたという SSK（佐世保重工業 KK）の 343 m の第 4 ドック等を眺めながらつぎの見学地「西海橋」に向かった。西海橋は径間 216 m，橋長 316 m の両端固定アーチ橋で，アーチ橋としてはナイヤガラのレインボー橋，ニューヨークのヘンリー・ハドソン橋につぐ世界第 3 位の橋であり，戦後復興期における有数の長大スパンに対する挑戦として当時の土木技術者の血を湧かせた橋であった。その上に立ってみると，眼下を大村湾から流れ出す潮は，激しく渦を巻き，湧きかえりながら超然と流れ，そのような歴史的事実も知らぬげであった。この西海橋が西彼杵半島と結んだ大村湾口にある針尾島にはまた，高さ 130 m のコンクリート製針尾無線塔が 3 本望まれ，昭和 16 年 12 月 8 日未明連合艦隊に送られた「新高山に登れ」の命令はここから発信されたとのことである。再び綜絽並木の中を通り早岐を経て，諫早を通過する。諫早は昭和 32 年 7 月 25 日未曽有の豪雨で本妙川がはんらんし，500 名余の人が死亡したので知られている。特にそのときこの洪水をひどくしたのがこの川に懸っていた石造アーチの眼鏡橋であるといわれたがこの川もその後川幅を拡張して改修され，眼鏡橋は昭和 39 年 11 月重要文化財に指定されて諫早公園に移築されていた。諫早から諫早干拓地を通り，この夜の宿　雲仙「東洋館ホテル」に到着したのが 17 時 30 分であった。

西海橋にて



18 時からの懇親会では長崎県小松土木部長の歓迎の辞，参加者を代表して東大　久保教授の謝辞のあと，北大の芳村助教授の音頭で乾杯し宴に入る。きれいどころの九州民謡おどりの御披露につづいて，全国各地の代表によりのどが競られなごやかな歓談のときが続いた。解散は 21 時。

翌 6 月 1 日は，8 時出発で仁円峠からロープウェイで妙見岳に発ったが雲に視界が妨げられて展望がきかなかった。そのあと地獄を一周して長崎に向った。長崎は 395 年前元亀 2 年（1571 年）に大村氏によって開港され，徳川鎖国の間も唯一の貿易港として外国に対する窓を開いていたので有名であるが，昭和 20 年 8 月 9 日午前 11 時 2 分原子爆弾によって廃墟と化した。しかし戦後 20 年を経た今日ではめざましく復興しており，浦上天主堂，平和記念像，26 聖人殉教地，大浦天主堂，旧グラバー邸跡等多数の異国情緒に満ちた観光地に楽しい一日を送った。14 時 30 分長崎駅前で解散おのおの帰途についた。

（国鉄鉄研　佐藤吉彦・記）

雲仙地ごくめぐり

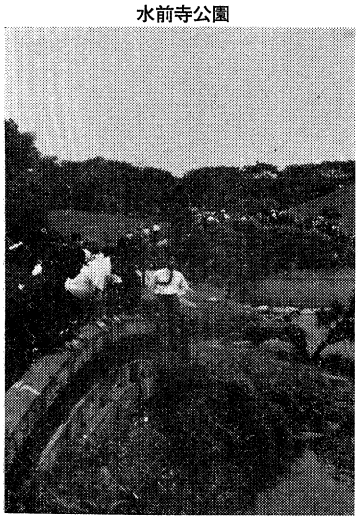
長崎平和公園にて

C 班（中九州コース）

去年の東北大会とまったく同じで，総会，講演会の 3 日間は小雨でうっとおしかったが，見学会となるとカラッと晴れ上った 5 月 31 日の朝。C 班参加者 42 名は博多発 8 時 54 分準急「第 1 えびの号」で熊本に向う。1 等車なので皆さんご機嫌のようす。10 時 50 分熊本に着く。駅前に待っていた九州産業交通の貸切バスに乗り込む。熊本県土木部から 2 名同乗され，美し

いパンフレットをくばられる。まず熊本城を見学する。人と牛馬のエネルギーだけで 360 年昔に建設された一大土木工事に感心する。城から見下す熊本市街はさすがに森の都の名にそむかない。つぎは水前寺公園。昼食が名物鯉料理。1時出発。暑くて上衣など着ていられるものでない。阿蘇山観光有料道路から西側ロープウェーで山頂へ。外輪山の方は霧がかかっていて眺望はまず 90 点。内牧温泉「蘇山郷」へ着いたのが予定通り 5 時ちょうど。6時半から大広間で夕食懇親会。毛利熊本県土木部次長の歓迎のことばを受け，参加者代表沼田名誉会員の謝辞のあと宴にうつる。郷土の踊「虎舞」は見ごたえ十分。無形文化財指定にうなづける。酒もたっぷり一同上機嫌。

水前寺公園



別府海地ごくにて

6月1日の朝もさわやか。9 時出発。バスは間もなく「やまなみハイウェイ」に乗る。52 k の緑のじゅうたんは文句なしに美しい。放牧の牛馬にシャッターが切られる。城島高原のホテルで昼食。今日も暑い。別府へはいって地獄めぐり，高崎山の野生猿を見てまわる。予定のコースをたのしく終って午後4時別府駅前で解散。　（学会事務局　菱田・記）

D 班（南九州コース）

見学会の第一陣として一行 44 名は講演会終了の夜，小倉経由で宮崎へ南下，寝台とはいえ博多から 10 時間の鈍行列車の旅は長い。

朝6時，ハワイムード溢れる宮崎へ着き朝食，バスで宮崎神宮へ……すがすがしい朝の神域に遠き神代の昔に思いを馳せ，市内を見下ろす平和台に立つ。「八紘一宇」，「紀元二千六百年記念」など忘れていた懐かしい文字が刻まれた塔を仰ぎ隣接のハニワ公園を散歩し市内を抜けて「子供の国」へ向かう。太平洋の波涛が寄せる日南海岸の一角に開ける広大な自然公園は，遊園地のイメージを打破る天国である。しばし童心にかえって遊び，フェニックス茂る日南海岸を一路南下し，世界でも珍らしいというサボテン公園を見る。南の空，紺碧の海をバックに，さまざまな形を見せるサボテンの丘は南国ならではの異様な風景であった。

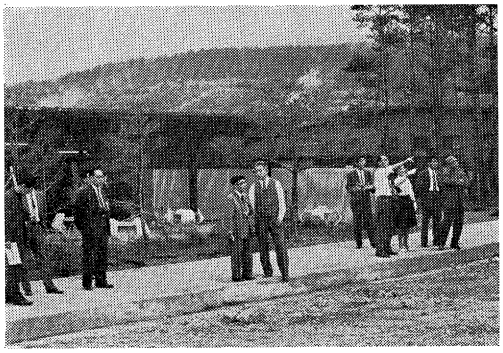
再び同じ道を引返し熱帯樹のジャングルでおおわれた青島を見物して昼食，さすがに暑く半袖のアベックが目立つ。

昼食後えびの高原への 3 時間半という長い道のりが始まる。前夜の疲れを快いバスの動揺にまかせてガイド嬢の軽妙な説明

子供の国にて

や歌も何時しか夢の中……小林市を抜け有料道路に入る頃から霧島の連山が迫ってくる。赤松の原始林と，えび色に染まるすすきがこの高原の特長とのこと，16 時すぎ，えびの高原に着き冷気が身にしみる高原を 30 分ほど散さく，予定より 1 時間ほど早く鹿児島県側の林田温泉ホテルへ入った。山中に忽然として出現した巨大なホテルにいまさらながら最近のレジャーブームを感ずる。広く豊富な温泉に旅の疲れをいやし，18 時 30 分ころから地元鹿児島県の設営による懇親会に臨む。吉開土木部長の丁重な歓迎の辞にこたえて，矢野京大教授の挨拶ののち宴にうつる。豪快な土地柄と民謡の宝庫だけに芸者衆の踊りも誠に豪壮活溌，名物芋焼ちゅうの味も格別である。会員の蔭し芸も出つくした所で9時頃お開きになった。

えびの高原にて



翌 6 月 1 日，8 時半に宿を出て霧島神社に詣で東洋のナポリ？カゴシマへ向かう。澄み切った錦江湾ぞいに走るうちに雄大な桜島が姿をあらわしてくる。島津公の別邸を見て西郷どんゆかりの城山へ登り市内と桜島をたん能したのち昼食，12 時に鹿児島駅で解散した。指宿へ，古里へ……直行で帰る会員が少なかった所をみると，皆様よほど南の国がお気にめしたらしい。晴天にめぐまれた豪華なこの見学会の会費はたった 6 000 円，支部の御配慮に紙上より厚く御礼申上げたい。（事務局　岡本・記）

付記：本見学会に関しいろいろお世話いただいた西部支部関係者はじめ関係各位に対して紙上より厚くお礼申し上げます。

【土木学会】

川崎偉志夫氏

大正 10 年 1 月鳥取県に生る。昭和 18 年東京大学工学部卒，昭和 20 年建設省九州地方建設局，24年 4 月関東地方建設局，27年 5 月建設省道路局，30 年 11 月日本道路公団若戸橋工事事務所長として若戸橋工事に従事し，38年 4 月建設省関東地方建設局道路部長，現在に至る。趣味は囲碁

乙藤憲一氏

大正 12 年 12 月福岡市に生る。昭和 22 年九州大学工学部卒，昭和22年 10 月建設省近畿地方建設局，25 年 1 月九州地方建設局，30 年 10 月同若戸橋出張所長，31 年 8 月 日本道路公団若戸橋工事事務所に移り若戸橋工事に従事し，38年 4 月日本道路公団本社構造設計課長，現在に至る。趣味はスポーツ

下川浩資氏

大正15年11月福岡県に生る。昭和 25 年九州大学工学部卒，同 3 月静岡県土木部道路課，同 7 月建設省九州地方建設局企画部，27 年宮崎国道工事事務所，20 年 8 月企画部，30 年 11 月若戸橋出張所，31年 8 月日本道路公団若戸橋工事事務所に移り，若戸橋工事に従事し，37年 6 月建設省九州地方建設局，39年 2 月本省道路局勤務，現在に至る。趣味は絵画・写真

池田哲夫氏

大正 10 年 4 月愛媛県に生る。昭和 26 年京都大学工学部卒，同 4 月建設省中国四国地方建設局，27年 7 月土木研究所，32年 3 月日本道路公団若戸橋工事事務所に移り，若戸橋工事に従事し，37 年 9 月建設省道路局勤務，現在に至る。趣味は切手蒐集・音楽

吉田巌氏

大正 15 年 6 月千葉県に生る。昭和 28 年東京大学工学部卒，同 4 月建設省九州地方建設局伊ノ浦橋工事事務所，30 年 12 月若戸橋出張所，31年 7 月日本道路公団若戸橋工事事務所に移り，若戸橋工事に従事し，37年 1 月建設省土木研究所に移り基礎工学についての研究に従事す。趣味は海釣

今回の受賞者5人の横顔を語る前に，まず総合的にこれらの人々のチーム ワークを語らなければならない。若戸大橋の完成は工事事務所全員の完全な協力によるものであろうが，これら5人の方々のそれぞれ傑出した各方面での力量，またそれを相互に結びつけたチーム ワークも見逃すことはできない。

所長である川崎氏は工事全体の責任者としての仕事のほかに，対外折衝を一手に引きうけられた。これには，建設省，道路公団等直接上部機関にたいするもののほか，地元県，市の折衝，用地折衝など数限りなくある。これらをすべてスムーズにやってのけた氏の政治力にたいする評価は大きい。乙藤氏は若戸大橋工事の技術面での全般的な掌握，対外折衝に忙殺される所長のよき女房役として所内をまとめた人である。下川氏は補剛桁を担当，池田氏は塔，ケーブルの担当，吉田氏は基礎工事の担当で，いずれもわが国はじめての大つり橋の調査，設計から工事まで，諸外国の実態調査，あるいは文献をたよりに，こつこつと零からつみあげて完成いたらしめた方々である。

豪放さとちみつさとをともに最高に要求されたこの工事を遂行した人たちは，この仕上げとしての調査報告書，工事報告書の作成にあたった。工事の最初からすでに報告書作成の構想をねり，プログラムを作って資料をととのえ，竣功後の半年を利用して一気に若戸大橋の技術の結晶を見事にまとめあげたのである。これら5人の方々に共通にいえることは，仕事に熱意と信条を持ち，それを貫くことのできる強い性格を持っていることといえる。

川崎偉志夫氏

日本における偉大な土木工事の一つである若戸大橋を完成させた工事事務所長としての氏は余りにも有名で，若戸大橋竣功当時，ある週刊紙に，〝坊っちゃん(漱石の)に計算尺を持たせたような人〟と評された。この評当っているともいえるが，坊っちゃんにはない綿密さ，ち密さを兼ね備えた人である。

島根県の海辺に育って，子供の時から港に興味を持ったという氏が，洞海湾をまたぐ大橋を完成させたことは本人にとっても本望であろうと想像される。

技術屋のあり方として専門化した人と，何でもこなせる人の両者がいてちょうどよい。役人として行政上の制約が強いので，技術の面を考えれば，米国的なコンサルタント組織がほしいといい，工事事務所長として技術面よりもむしろ用地折衝にキリキリ舞いさせられる矛盾はという質問にたいし，どうしても現場最高責任者が行かないと相手方が納得しない日本の現状では仕方がないとわり切るあたり，一本すじの通った人である。

酒を好み，毎晩欠かさぬ方であるが酒量はそれほどでもないよし。

趣味は囲碁（初段）のほか，酔えば特技のオルガンで合唱にあわせるという粋人でもある。

乙　藤　憲　一氏

色は浅黒く，長身でしまった体格でなかなかの紳士であるが，話しをするとやさしさがにじみでて，誰にでも好かれる人である。

はじめは医者を希望したが，事情があって九州大学航空学科に入学，さらに終戦によって土木に転科した。昨年土木賞を受賞した三笠正人氏とは中学，高校，大学を通じての同期生であり，大学では航空から土木という経歴まで同じである。

高校時代ラクビー部の主将を務めたが，就職して急に運動をやめると体をこわすので，大学在学中の3年計画で徐々に運動量をへらしたという，土木の分野では得がたい慎重さと計画性を兼ぬ備えた人である。

若戸橋の調査，設計にあたり，とことんまで調べつくして，もう十分というところまでいっても，なお文献では調べつくせない重要な点を見落してはいないかと心配したといわれるあたり，苦労のほどがしのばれる。

現在受賞者の中ではただ1人，日本道路公団に残り，構造設計課長として同公団の橋梁関係を担当しておられる。

目下健康のためにゴルフを習いはじめたところという。

下　川　浩　資氏

なかなかの好男子で若松でも相当モテたという噂であるが本人にあうとなるほどとうなずける。

大学卒業後静岡県から九州地建にかわって，宮崎の日向大橋を設計施工まで担当し，ローゼ桁の計算と溶接橋の初期の施工方法で苦労をされたようである。若戸橋では補剛桁の計算と施工を担当し，一時若松側下部工事の主任監督員としてジェネコンによる大工事の施工監督にもたずさわり，橋梁技術者としては数少ない貴重な体験をされた。

若戸橋のあとは九州地建道路計画課長として関門架橋の比較案などにも関係され，現在本省国道第二課で構造物を担当しておられる。

きちょうめんでまじめな仕事ぶりだそうであるが，夕方5時すぎると，結構酒もダンスもたしなまれる粋人だそうである。

写真機いぢりが好きでプロ級の作品をものにしたこともあるらしいが，いまはゴルフの方がお忙しい由。

池　田　哲　夫氏

小柄でそう身，何か鋭さを感じさせる人である。

昭和 27～32 年の5年間，建設省土木研究所で橋梁関係，特に大つり橋の研究に従事し，若戸大橋の建設にあたっては，まだ誰も手をつけてない分野，ケーブル，塔を自ら希望して，これに取り組んだ。塔はその継手の切削は全面密着という高精度が要求され，またケーブルも当初は国産技術ではその成否が云々された難物であり，両者とも見事に仕上げたことは，この人の力量に負うところ大であろう。

なかなかの世話ずきで，若い人の面倒はよく見る方。若戸橋でも後輩職員の結婚話をまとめたり，私生活に対する意見を与えたり，親切な兄貴として親しまれていたそうである。

趣味は，切手蒐集，音楽とはなはだ高尚であるが，若松での切手展覧会に橋切手を出品したこともあった由，煙草は一切やらず，酒はくずれたことがないので，同僚諸君も飲めないのか，底なしなのかさっぱり見当がつかないという。

吉　田　　巌氏

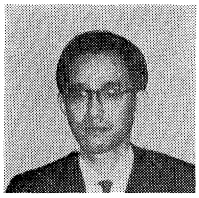
中肉中背，一見きびしく見えるが，笑えば親しみがこぼれる。仕事には相当のファイトを持ち，話し出せば熱のこもった話がつぎつぎに出てくる。

陸軍幼年学校，同予科士官学校をへて，終戦後東京都立高校から東大工学部に入学したが，在学中，唯一のとりえ（と氏はいう）は体をこわして3年間休学したことであるという。

卒業後はただちに建設省に入り，西海橋の主として上部工工事に従事し，完成後さらに若戸橋の下部工工事を担当し，現在は土木研究所で基礎工学の研究に従事し，一方本州四国連絡橋の調査にもとりくんでいるという。仕事歴にはきわめて恵まれた人である。

基礎関係には大きな熱情と深い見識とを持ち，上記の経歴とあいまって，まだ未知であいまいな点の多い，この分野にとって，なくてはならぬ人である。

趣味は海釣り，西海・若戸の両工事の8年間できたえたものであろう。酒をのむと陸軍気質が出て愉快になるが煙草は一切だめだそうである。



毛利正光氏

大正 14 年1月広島県呉市に生まる。昭和 24 年京都大学工学部を卒業後，同大学院へ進む。26 年京大講師，27 年大阪市大講師，34 年大阪市大助教授・同年学位をうく。30 年名古屋大学教授となり大阪市大講師を兼務現在にいたる。著書に交通工学(国民科学社)があるほか学会論文集に共著をふくめ10編近い論文を発表している。

受賞式での毛利さんは奥様ご同伴であった。「前例がないといい聞かせたのに，せがまれまして……」とご本人はしきりに照れるが，過去一，二回こういう例はあったのである。外国との交流が進むにつれて，他の学会などでは，ぼつぼつ内助の功をも表彰する風潮が見られると聞くから，土木学会としても検討の必要はあるだろう。前向きな姿勢で旧習を打破しようと試みた毛利ご夫妻の勇断には敬意を表さねばなるまい。

「ノーベル賞のような大変な賞を主人が貰った」というのが，受賞の第一報を電話でうけられた夫人の印象だったとか，お二人とも飾らないお人柄が誠にさわやかで微笑をさそう。

「始めから望んで研究生活に入ったのでは決してなかった」毛利さんは，途中で何度も志を変えて「役人にでもなろうか」と思ったか知れないという。今でこそ交通工学の研究は時代の脚光をあび，名大教授，大阪市大講師という多忙なカケモチ授業を余儀なくされている毛利さんであるが，10 何年前といえば土木の主流から離れた，道楽研究くらいにしか世間は理解してくれなかったと聞く。文献もとぼしく，相談する相手も少なく，研究費の捻出にも頭を悩ませたとあっては正に暗中模索，建設省か道路公団にでも入ろう，という気持が働らくのは当然のことだったろう。パイオニヤの苦難を身をもって十分すぎるほど味わわれたという感じが，お二人の表現の中に至るところに滲み出ている。

「土木の一分野として今回の受賞で学界に認められたということが，これから同じような道を歩む人達に良い刺戟であってほしい」という感想に続けて，「今までやってきた駐車場やターミナルの研究は，交通計画のほんの一面にしかすぎず，今後大都市過密化にともなって生ずるさまざまな問題を工学的に解決するために，一生かかって努力したい」と特徴のある話しぶりで語り続ける。

コツコツと積上げてゆく性質と先見の明が，多くの後輩を育成し貴重な業績を社会へ与えてゆくだろう。

交通工学の先生だけにハンドル捌きは鮮かで，11 才と9才のお嬢さんを交えて，ドライバーとしては先輩の夫人とともに余暇を見ては名神あたりを飛ばすらしい。ヨット，ゴルフなど趣味は広い。昭和 39 年度石川賞を都市計画学会から併せて受賞した。大阪市の産業構造から見た都市再開発の論文である。二重の喜びであるに違いない。巾広い活躍を祈ろう。

藤田嘉夫氏

昭和4年北海道に生まる。28 年北大工学部を卒業，修士課程を経て 32 年講師，助教授となり現在に至る。鉄筋コンクリート，PC に関する多くの研究業績あり。

4回目の吉田賞は7件の応募があり，厳しい選考を経て北大の藤田さん一本にしぼられた。昭和 29 年以来，病身に鞭打ちながら着々と研究を進めてきたRC 桁およびPC 桁の極限強さ設計法に関する永年の研究成果が実ったものとして，ご本人はもとより周囲の喜びは格別なものであろう。

小さい時から身体が弱かった藤田さんは，高校で二年おくれ，卒業でまた病気，大学へ進んでからもシーズンごとに病気をくり返し，身体が悪いままに卒業するよりは大学院へ残って勉強する決心を固め進んだところ，マスターコース二年でまた病気……という全く血みどろの闘病生活にあけくれたそうだ。恩師のすすめで，ドクターコースを選んだのも，身体を鍛えながら一歩一歩あせらずに進むよう覚悟をきめたからだという。土木を選んだ動機も，「機械をやりたかったのに，兄貴から土木は外に出る仕事だから身体のために良いという，おかしな理由で……」と苦笑いする。32 年ころの北大は助教授がたった二人というピンチにおち入り，「本当は学校に残りたくなかった」藤田さんをして，ついに教壇へ立たせることになるのだから人生航路も複雑である。

戦争中，学徒動員で名古屋の愛知時計へ引張られた藤田さんにとって，当時の鉄不足は頭にこびりついたらしく，コンクリートを選んだ遠因もその辺にあるらしい。「コンクリートはいくら学校や研究室でよいものを作れと叫んでも，末端への浸透を計らなければ何もならないと思う」と前置きして，夏休みには極力現場を見るようにしているそうだ。自然条件の厳しい北海道の風土はこの人に，またとない実験の場を提供していると見てよさそうである。

健康管理には人一倍神経を使っているらしく，体操，園芸，魚釣りなど，早起きの習慣になるようなものには極力身を入れている由である。

「コンクリートにはまだまだ欠点が多いので，なるべく安いコストの範囲で改良してゆくことに力を注ぎたい」という将来の抱負に向かって，大いに身体に気をつけて道産子の面目を発揮して頂きたいものである。

加藤昭吉氏

昭和4年11月茨城県に生まる。昭和29年早稲田大学第一政治経済学部卒業後，大成建設KKに入社，現在に至る。同社企画調査部に在職中。最近の著者に「新しい計画と管理の技法（PERT/CPM の理論と使い方）」，「計画科学」がある。ほか土木学会誌に講座を執筆したことあり。

土木工学はその研究項目がきわめて広いため，学会は土木出身者のみならず他の専門分野の人々を入会せしめて組織し運営にあたるべきである……初代会長　古市公威博士は発会の会長講演で強く訴えておられる。50年前の精神がはからずも文科系の出身である加藤さんの受賞で実現されたと見るのはオーバーにしろ貴重な出来事であろう。

色白でシャープな感じを与えるこの人が建設会社に入った動機は父親の事業の都合で大学院にすすむ予定が急に変更になったためという。入社して間もなく，事務系と技術系の仕事の距離が，非常に狭まりつつあると肌で感じた加藤さんにとって，30年に海外視察団の一員としてアメリカへ渡ったことは，大きなプラスだったといえよう。とくに技術革新が叫ばれながら依然として工程管理の手法には明治以来のガント・チャート（横線工程表）が使われているが，新しい時代の息吹きを浴びてきたかれにとって，これは，全く納得がゆかないことだったらしい。渡米を機会に，かねてから評判のよいと聞いていた新しい手法を学び取るため，ついにはスタンフォード大学にまで行き，土木関係への応用結果を詳細に調べ，レクチュアーを受けて帰国，日本で果して応用しうるかを本格的に取組んでいった。現場から現場へ泊り歩き，実際例をつぶさに分析し，いかにして使って貰えるかというＰＲにも心を砕きながら研究を続けたというから，大変な努力だったといえよう。建設会社内で多くの技術者と接触している加藤さんに，最初のころ感じた技術者群の印象は，と水を向けると，「建築と土木の技術者を総体的にみた場合，建築屋さんはスマートな感じだが新しいものにやや懐疑的な所をもち，土木屋さんは豪放で泥くさい面があるが，ドラマがあり実行力に富んでいる」という。またさっぱりした性格の土木屋さんは「うしろ姿が非常に良い」というあたり，なかなか文学的な表現である。人の真似事が大嫌いで，学生時代から反発情神を貫ぬいてきた加藤さんは，これからやりたいこととして，「新しい合理的な管理技法を早く日本に定着させてみたい」そうである。「全体を無駄なく，無理なく，効果的にまとめる思考が日本人に欠けている」と鋭く指適しながら，「個々の突込みも大切だが，全体のプロジェクト的なとらえ方を管理手法に取入れる研究を進めて行きたい」とファイト十分に抱負を語り続ける。次々と新しい局面に当面してゆく建設業の一翼に加藤コンピューターが果さねばならない問題は山積しているといえよう。洋画が趣味と聞くが豊かな人世をカンバスに描きつつ会社名のごとく大成されたい。

島田静雄氏

昭和6年11月静岡県三島市に生る。昭和29年東京大学工学部卒，修士，博士コースを経て34年東大工学部助手，新制第一回の工博をうけ，36年講師，38年11月名古屋大学助教授となり現在に至る。著書として倉西茂氏と共著で曲線ばり計算式集および数表を近く出版するほか，構造工学の多くの論文を発表している。

大した動機もなく，ただ偶然の機会が重なって自然に研究生活へ足が向くようになってしまった，と笑う島田さんであるが，父上が学校の先生だっただけに，伜まで教師でメシを喰うとは夢にも思っていなかったという。しかし最近では「自分の経験から割出して開発したという最短距離の学び方を整理して，学生にいかに教え込むか，ということに慾が出てきた」そうだから，今年はじめて土木の卒業生を送り出した名古屋大学の気風は，この人の進路に合っているのかも知れない。

〝野次馬精神きわめて旺盛で，職人的コリ性の持主〟と自認するだけあって，アイデアマンとしての名声は，先輩の毛利教授の言を借りるまでもなく非常に高く評価されている。反面，東大時代はずいぶん思い切ったことも平気でいうし，自他ともに許すズボラ性のために，周囲の誤解を招いたことが再三ならずあったという。野性味豊かな天才肌のところを多分に持合わせた人である。

「一度やったことは二度とくり返したくない，計算だって最初徹底的に突込んだら，あとは計算尺で出せるようにしておきたい」といった合理精神の素地は，大学時代から形づくられていったようであり，今回の二編の受賞論文にもはっきり現われているのではあるまいか。「架空の理論より実験の工事から得たヒントを大切にしたい。吊橋の応力計算だって面倒な方法ばかり追わないでも，もっと簡単な計算があるはず」など，この人に言わせると学問の既成体系は必ずしも，正しいとばかり言い切れないという。裏側つまり結果を分析することが，工学の本質を究めるのに最も大切なことだと主張する。ただの野次馬根性とばかり評し切れない筋の通った哲学のようなものを持っているのだろう。

絵をよくし，オルガン音楽が大好きな島田さんは，最近自らも弾きだしたそうだ。持前のコリ性が頭をもたげてきたらしい。島田さんのドライバー歴はかなり古い。愛車もまた52年型のフォードというくすんだグリーンの時代ものである。4万円を投じ修理にまた4万円近くをかけたというから可愛くて仕方がない表情である。エンジンの調子にさえ注意すればさえならまだまだ使えるそうだから，この昔なつかしい車は，そう簡単には姿を消しそうにない。躍進する中京経済圏とともに新進気鋭の名大生を数多く育て，研究業績の発展を期待しよう。